

小平市介護保険運営協議会

資料2-2

令和5年5月25日

# **小平市地域包括ケア推進計画(案)**

## **(小平市高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画)**

**(令和6(2024)年度～8(2026)年度)**

**令和6(2024)年3月**

**小 平 市**



## 目 次

### 第1章 計画策定にあたって

- 1 計画策定の背景と趣旨
- 2 計画の位置づけ
- 3 計画の期間

### 第2章 市の現状と課題

- 1 推計人口
- 2 日常生活圏域別の現状
- 3 アンケート調査結果に見る高齢者の現状
- 4 前期計画における評価と課題

### 第3章 計画の基本的な考え方

- 1 計画の基本理念
- 2 基本目標
- 3 施策の体系
- 4 日常生活圏域の設定

### 第4章 施策の取組

- 1 地域づくり・日常生活支援
- 2 介護予防・健康づくりの推進
- 3 見守り体制の充実
- 4 認知症施策の推進
- 5 在宅医療と介護の連携の推進
- 6 社会参加の促進
- 7 権利擁護の充実
- 8 介護サービスの充実と給付の適正化
- 9 安心できる住まいの確保

### 第5章 介護保険事業の見込量と介護保険料

- 1 介護保険事業の見込量推計と保険料設定の流れ
- 2 介護保険事業の見込量推計
- 3 介護保険料

### 第6章 計画の推進体制

- 1 計画の進行管理
- 2 関係機関等との連携
- 3 国・東京都への要請

### 資料編

- 1 小平市介護保険運営協議会設置要綱
- 2 小平市介護保険運営協議会委員名簿
- 3 小平市介護保険運営協議会の検討経過
- 4 小平市地域包括ケア推進計画策定調整会議設置要綱
- 5 小平市地域包括ケア推進計画策定調整会議委員名簿

- 6 ワーキングチームメンバー
- 7 小平市地域包括ケア推進計画策定調整会議の検討経過
- 8 市民意見公募（パブリックコメント）
- 9 用語解説

## 第 1 章

# 計画策定にあたって

# 第1章 計画策定にあたって

## 1 計画策定の背景と趣旨

### (1) 計画策定の背景と趣旨

介護保険制度は、平成 12（2000）年の制度創設から 23 年が経過し、高齢化の進行とともに 65 歳以上の第 1 号被保険者数は約 1.7 倍に増加する中で、サービス利用者数は約 3.5 倍に増加するなど、高齢者の介護になくてはならないものとして、社会に定着し、発展してきました。

総務省統計局によると、日本の総人口に占める 65 歳以上の高齢者の割合（高齢化率）は、令和 5（2023）年 4 月 1 日現在、29.1 %と 3 割に迫り、高齢化が進展しています。

これまで、団塊の世代が 75 歳以上となる令和 7（2025）年を目途に、高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう「医療・介護・介護予防・住まい・生活支援」が包括的に確保される地域包括ケアシステムの構築を目指し、介護保険制度の改正が進められてきました。

今後も高齢者人口は増加し、中でも 85 歳以上の人口の急増に伴い、要介護認定者数や介護給付費が大幅に増加することが見込まれています。また、団塊ジュニア世代が 65 歳以上となり、高齢者人口がピークを迎える令和 22（2040）年頃には、一人暮らし高齢者や認知症高齢者に加え、医療・介護双方のニーズを有する高齢者など様々なニーズのある要介護高齢者が増加する一方で、生産年齢人口は急速に減少が見込まれており、人口構成の変化といった厳しい局面に直面することが予想されています。

今後の更なる高齢化の進行や人口減少といった様々な社会環境の変化も見据えながら、介護保険制度の持続可能性の確保に向けた早急な対応が求められています。

### (2) 小平市の取組

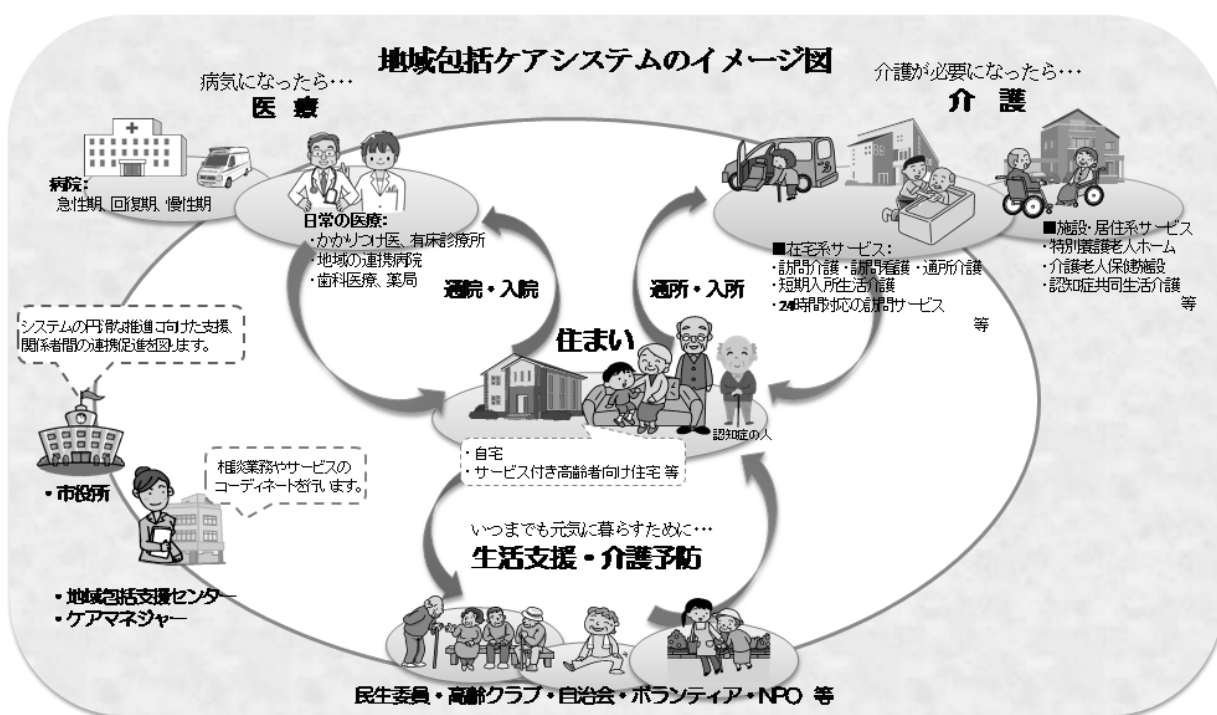
小平市においては、令和 5（2023）年 4 月 1 日現在、人口約 19 万 7 千人に対し、高齢者人口が約 4 万 6 千人、高齢化率は 23.6 %となっています。市では、高齢化が進展する中、平成 27（2015）年度の高齢者保健福祉計画及び第 6 期介護保険事業計画から、「小平市地域包括ケア推進計画」と総称し、「住み慣れた小平で、いきいきと笑顔で暮らせる地域社会をめざして」を基本理念に、団塊の世代が 75 歳以上となる令和 7（2025）年を見据え、「医療・介護・介護予防・住まい・生活支援」が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築に向けた各種取組を進めてきました。

ここで、令和 7（2025）年を迎えることとなります。市の推計では、今後も高齢化がより進展し、令和 22（2040）年には高齢者人口は約 5 万 6 千人、高齢化率は 30.2 %まで上昇していくことが見込まれています。

また、高齢者人口の増加に伴う介護サービス需要の急激な増加が見込まれる一方、総人口は令和7（2025）年をピークに減少し始めるとともに、生産年齢人口の減少が進むため、介護サービス基盤の整備や介護サービスの担い手不足など高齢者を取り巻く環境が大きく変化することが予測されます。

こうした社会環境の変化の中においても、高齢者が必要なサービスを受けられ、できる限り住み慣れた地域で安心して生活できるよう、引き続き、地域包括ケアシステムの更なる推進を図りつつ、地域共生社会への実現を目指すことが求められています。

これまでの市の高齢者施策を検証するとともに、今後の中長期的な人口動態や介護サービス需要の見込みを踏まえ、高齢者保健福祉及び介護保険事業の円滑な実施や推進を図るために、令和6（2024）年度からの「小平市地域包括ケア推進計画」を策定します。

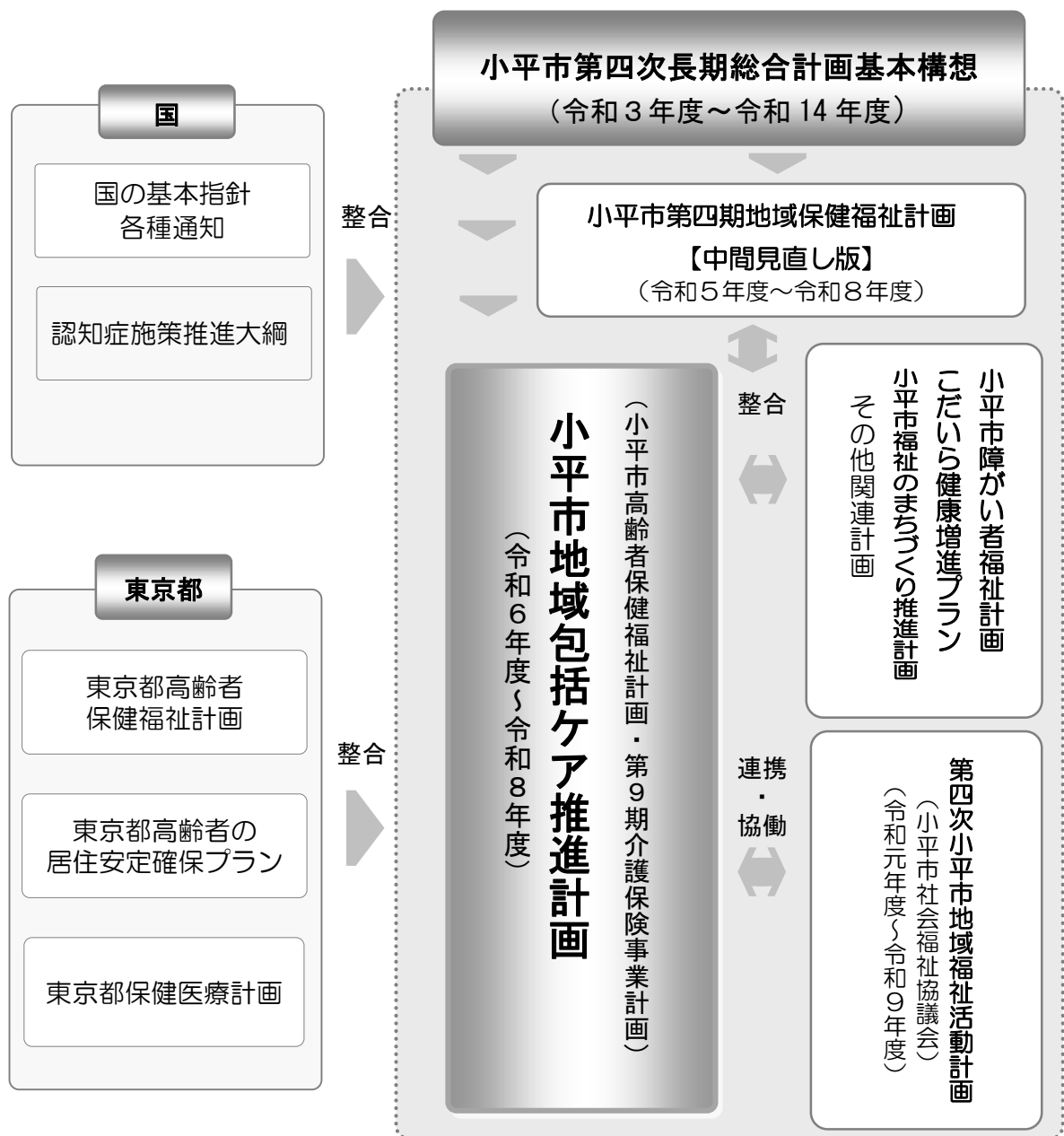


※ 地域包括ケアシステムは、おおむね 30 分以内に必要なサービスが提供される日常生活圏域（具体的には中学校区）を単位として想定しています。

## 2 計画の位置づけ

本計画は、老人福祉法第20条の8に規定する高齢者保健福祉計画及び介護保険法第117条に規定する介護保険事業計画を一体として策定するものであり、総称を「小平市地域包括ケア推進計画」としています。

また、本計画は、「小平市第四次長期総合計画基本構想」の部門別計画である「小平市地域保健福祉計画」や、「小平市障がい者福祉計画」、「こだいら健康増進プラン」等の関連計画及び介護保険法に基づく国の指針や東京都高齢者保健福祉計画等との整合性を図ります。





### 3 計画の期間

本計画の対象期間は、令和 6（2024）年度から令和 8（2026）年度までの 3 年間とします。





## 第2章

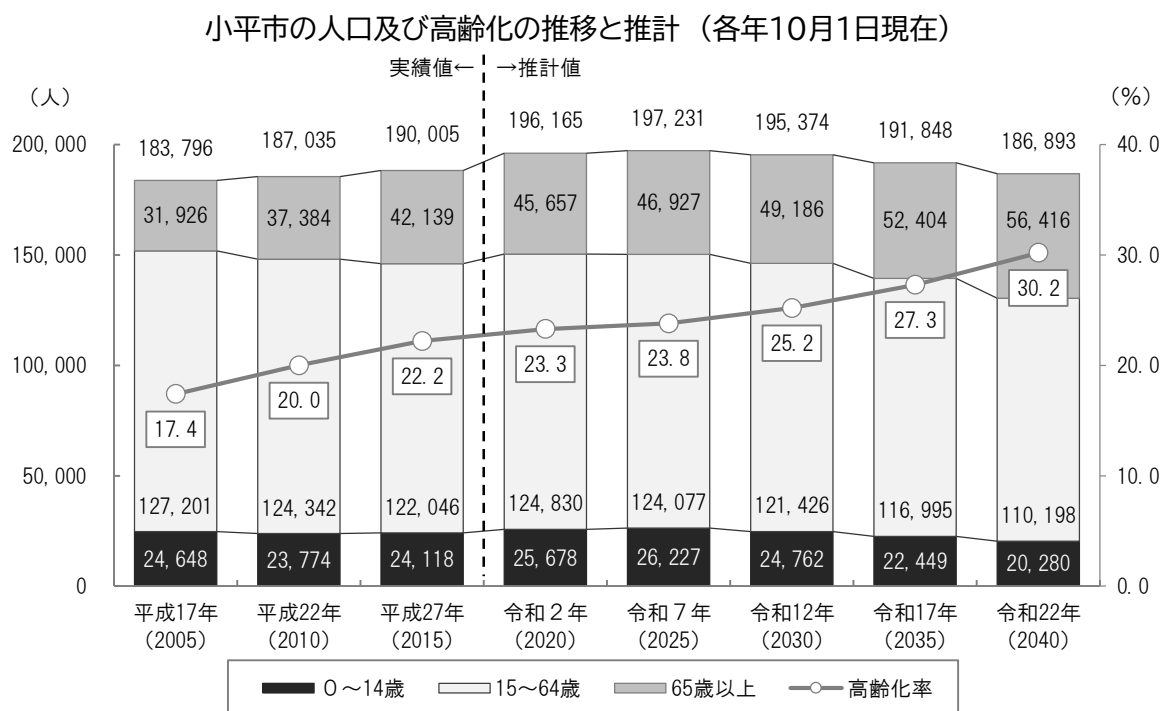
## 市の現状と課題

# 第2章 市の現状と課題

## 1 推計人口

### (1) 市の人口及び高齢化の推移と推計

小平市の総人口は、近年微増傾向にあります。令和7（2025）年の197,231人をピークに減少に転じ、令和22（2040）年には、186,893人まで減少すると推計しています。一方、高齢者人口は、年々増加しており、令和7（2025）年には、46,927人、高齢化率は23.8%、団塊ジュニア世代が高齢者となる令和22（2040）年には、高齢者人口がさらに増加し、56,416人、高齢化率は30.2%まで上昇すると推計されています。



		実績			推計				
		平成 17 年 (2005)	平成 22 年 (2010)	平成 27 年 (2015)	令和2年 (2020)	令和7年 (2025)	令和 12 年 (2030)	令和 17 年 (2035)	令和 22 年 (2040)
総人口(人)		183, 796	187, 035	190, 005	196, 165	197, 231	195, 374	191, 848	186, 893
年齢3区分 (人)	0～14 歳	24, 648	23, 774	24, 118	25, 678	26, 227	24, 762	22, 449	20, 280
	15～64 歳	127, 201	124, 342	122, 046	124, 830	124, 077	121, 426	116, 995	110, 198
	65 歳以上	31, 926	37, 384	42, 139	45, 657	46, 927	49, 186	52, 404	56, 416
	高齢化率 (%)	17. 4	20. 0	22. 2	23. 3	23. 8	25. 2	27. 3	30. 2

資料：「小平市人口推計報告書補足版（令和元年8月）」

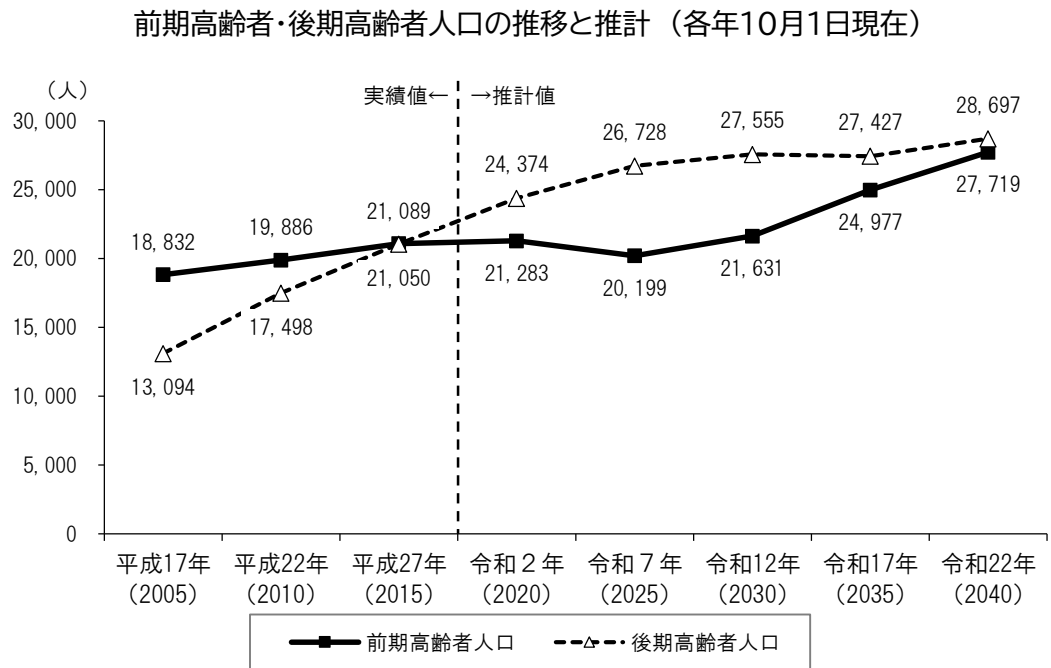
※平成27年国勢調査結果等を基にしたコーホート要因法による推計。

※実績（平成27年度まで）の総人口には「年齢不詳」を含むため、年齢3区分の合計値と一致しない。

※推計（令和2年度から）の数値は、小数点以下を端数処理しているため、総人口が年齢3区分の合計値と一致しない場合がある。

### （２）前期高齢者及び後期高齢者人口の推移と推計

前期高齢者（65歳～74歳）及び後期高齢者（75歳以上）人口の推移をみると、平成27（2015）年以降は、後期高齢者人口が前期高齢者を上回り、令和7（2025）年までは後期高齢者の伸び率は大きくなると推計されます。前期高齢者は令和7（2025）年に減少するものの、令和12（2030）年以降再び、大幅に増加していくと推計されます。



単位：人

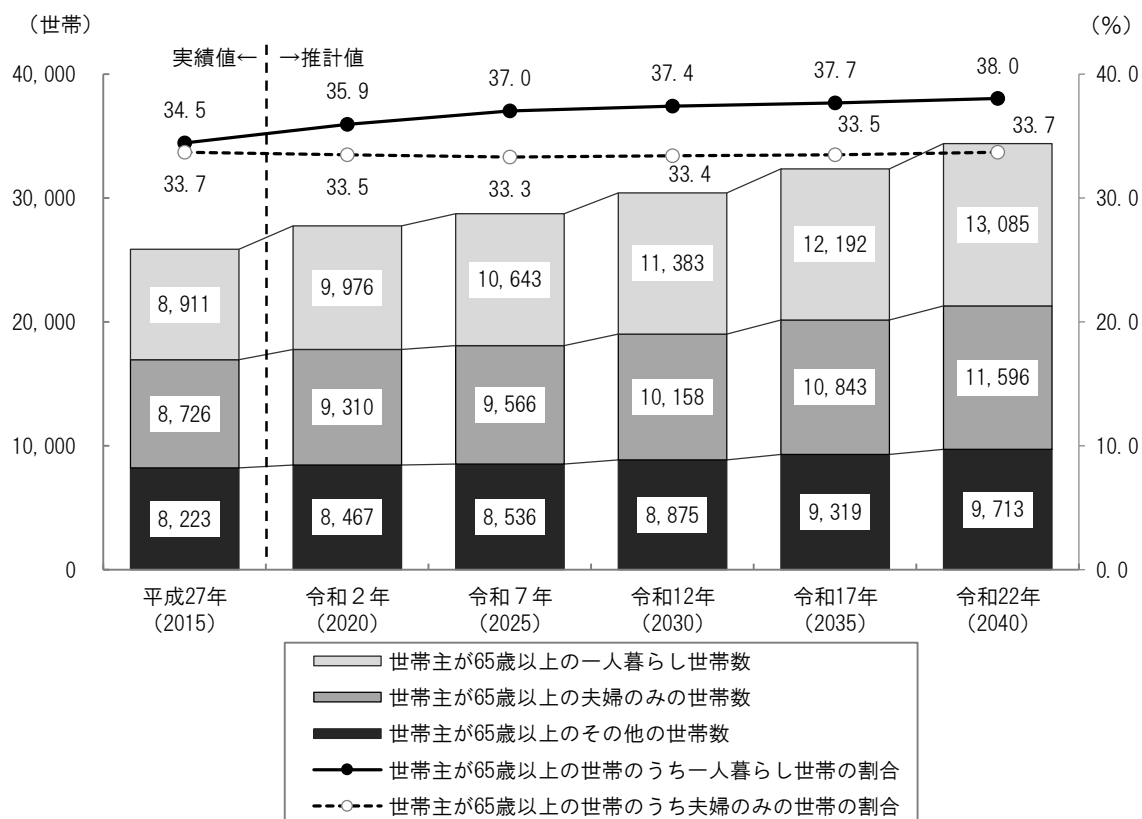
	実績			推計				
	平成 17 年 (2005)	平成 22 年 (2010)	平成 27 年 (2015)	令和2年 (2020)	令和7年 (2025)	令和 12 年 (2030)	令和 17 年 (2035)	令和 22 年 (2040)
高齢者人口	31,926	37,384	42,139	45,657	46,927	49,186	52,404	56,416
前期高齢者人口	18,832	19,886	21,089	21,283	20,199	21,631	24,977	27,719
後期高齢者人口	13,094	17,498	21,050	24,374	26,728	27,555	27,427	28,697

資料：「小平市人口推計報告書補足版（令和元年8月）」

### （３）高齢者世帯の推移と推計

世帯主が65歳以上の世帯は増加傾向にあり、今後も増加し続けていくことが予想されます。なかでも一人暮らし高齢者世帯、高齢者夫婦のみの世帯の増加が大きく、令和7（2025）年には65歳以上の方がいる世帯のうち7割を超えると推計されます。

高齢者世帯の推移と推計（各年10月1日現在）



	実績	推計				
	平成 27 年 (2015)	令和2年 (2020)	令和7年 (2025)	令和 12 年 (2030)	令和 17 年 (2035)	令和 22 年 (2040)
世帯主が 65 歳以上の 一般世帯※	25, 860	27, 753	28, 745	30, 416	32, 354	34, 394
世帯主が 65 歳以上の 一人暮らし世帯	8, 911	9, 976	10, 643	11, 383	12, 192	13, 085
割合(%)	34. 5	35. 9%	37. 0%	37. 4%	37. 7%	38. 0%
世帯主が 65 歳以上の 夫婦のみの世帯	8, 726	9, 310	9, 566	10, 158	10, 843	11, 596
割合(%)	33. 7%	33. 5%	33. 3%	33. 4%	33. 5%	33. 7%
世帯主が 65 歳以上の その他の世帯	8, 223	8, 467	8, 536	8, 875	9, 319	9, 713

資料：東京都世帯数の予測（平成31年3月）

※平成27年国勢調査結果等を基にした推計。

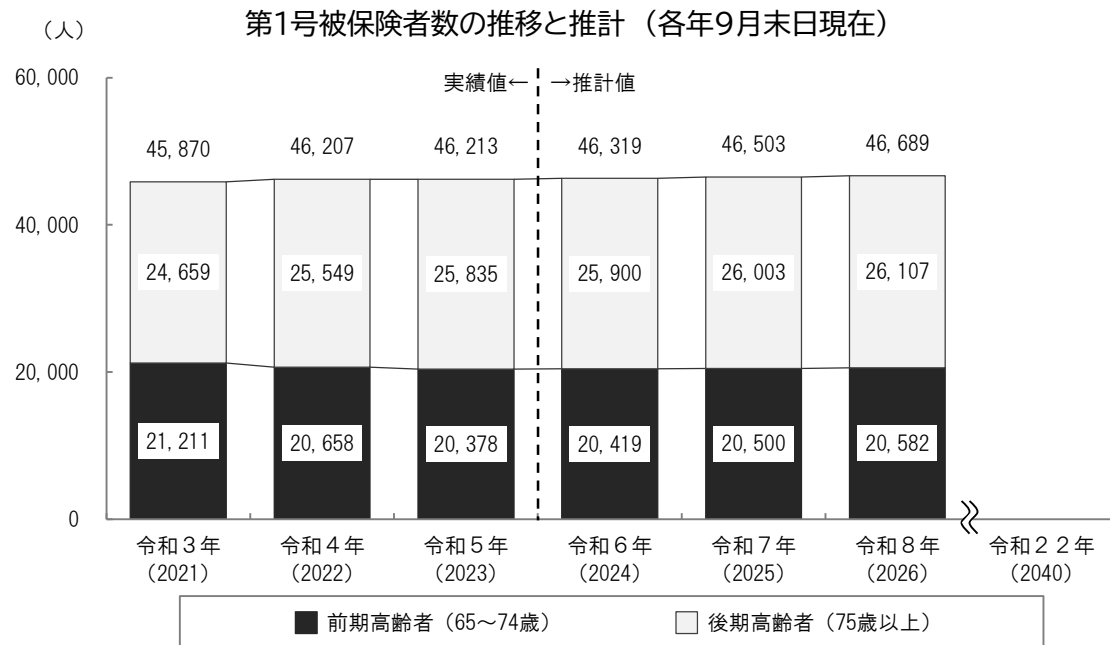
※「一般世帯」とは、「施設等の世帯」（病院・療養所、老人ホームなどの社会施設等）以外の世帯。

令和5年の数値は1月分を使用して以降を推計  
(2号は人口推計を使用)

#### (4) 介護保険被保険者数の推移と推計

##### ①第1号被保険者数(65歳以上)

第1号被保険者数は、今後も増加していくことが見込まれ、令和22(2040)年には 人になると推計されます。



単位：人

	実績			推計			
	令和3年 (2021)	令和4年 (2022)	令和5年 (2023)	令和6年 (2024)	令和7年 (2025)	令和8年 (2026)	令和22年 (2040)
第1号被保険者数	45,870	46,207	46,213	46,319	46,503	46,689	
65~74歳	21,211	20,658	20,378	20,419	20,500	20,582	
75歳以上	24,659	25,549	25,835	25,900	26,003	26,107	

資料：小平市高齢者支援課推計

##### ②第2号被保険者数(40歳~64歳)

第2号被保険者数は、今後も増加していくことが見込まれ、令和22(2040)年には 人になると推計されます。

##### 第2号被保険者数の推移と推計(各年9月末日現在)

単位：人

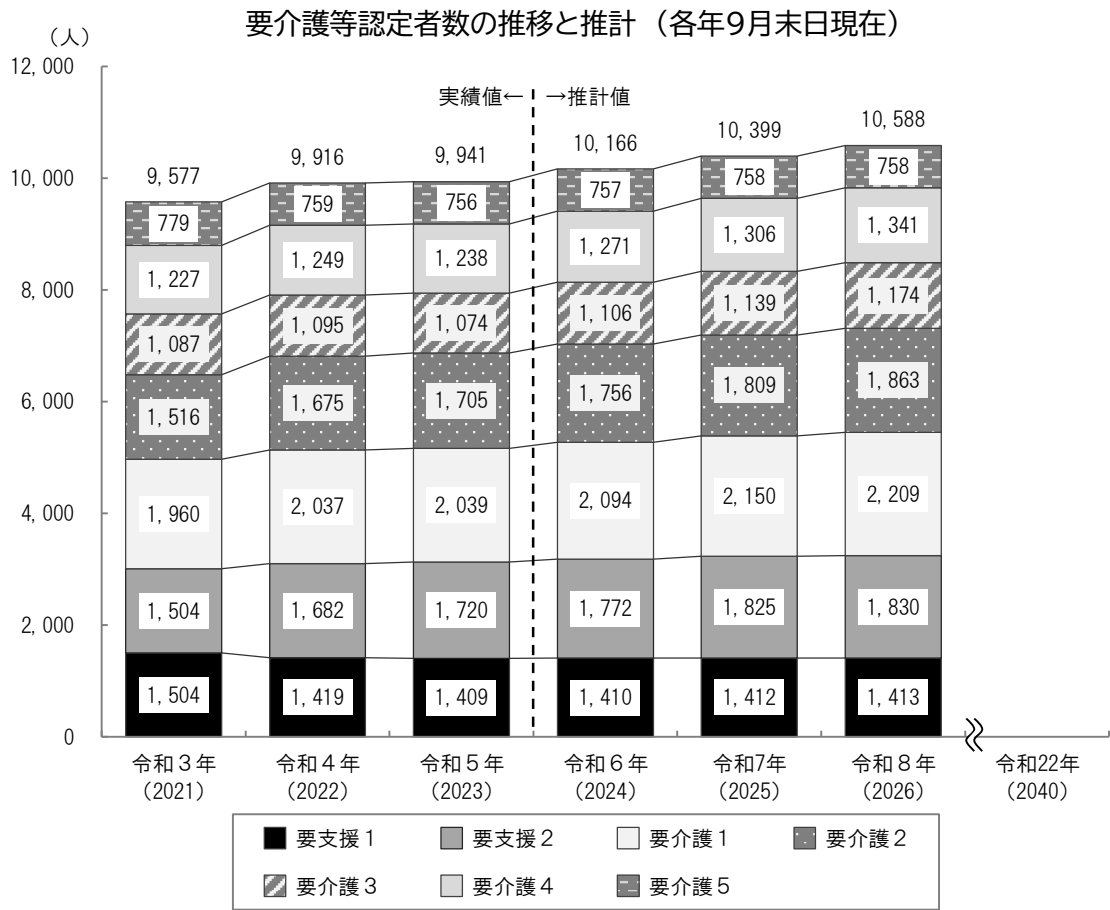
	実績			推計			
	令和3年 (2021)	令和4年 (2022)	令和5年 (2023)	令和6年 (2024)	令和7年 (2025)	令和8年 (2026)	令和22年 (2040)
第2号被保険者数	68,894	69,560	69,927	70,413	70,790	71,084	

資料：小平市高齢者支援課推計

(5)(6) 令和5年の数値は1月分を使用して以降を推計

(5) 要介護等認定者数の推移と推計

要介護等認定者数は、今後も増加していくことが見込まれ、令和22(2040)年には人になると推計されます。



	実績			推計			
	令和3年 (2021)	令和4年 (2022)	令和5年 (2023)	令和6年 (2024)	令和7年 (2025)	令和8年 (2026)	令和22年 (2040)
要支援1	1,504	1,419	1,409	1,410	1,412	1,413	
要支援2	1,504	1,682	1,720	1,772	1,825	1,830	
要介護1	1,960	2,037	2,039	2,094	2,150	2,209	
要介護2	1,516	1,675	1,705	1,756	1,809	1,863	
要介護3	1,087	1,095	1,074	1,106	1,139	1,174	
要介護4	1,227	1,249	1,238	1,271	1,306	1,341	
要介護5	779	759	756	757	758	758	
計	9,577	9,916	9,941	10,167	10,399	10,588	

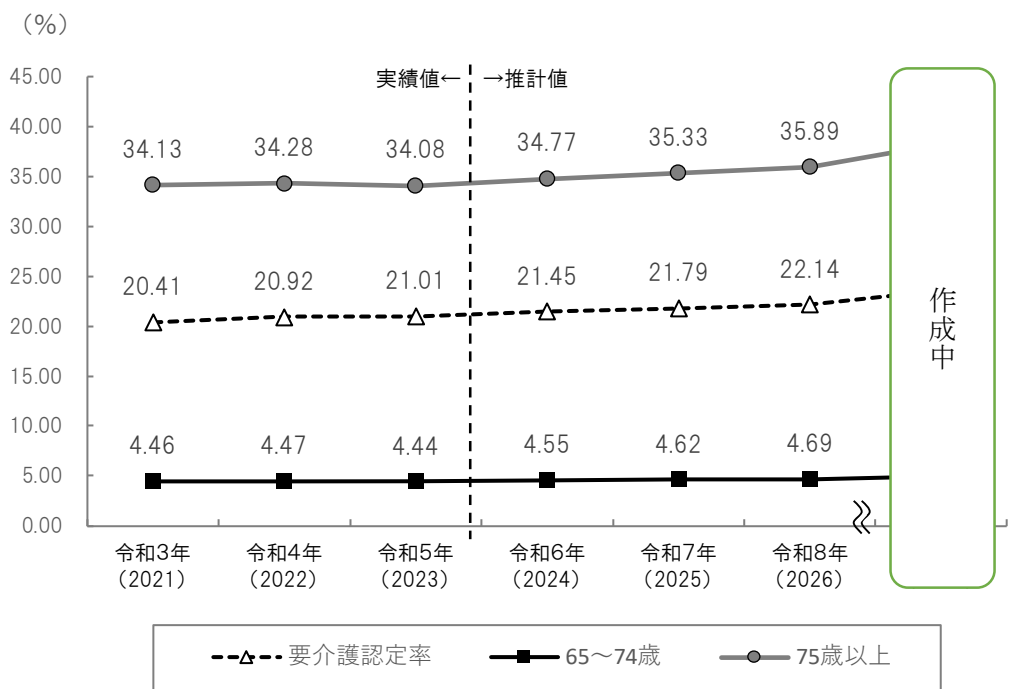
資料：小平市高齢者支援課推計  
 ※第2号被保険者を含む。



(6) 第1号被保険者に占める要介護等認定者の割合(認定率)の推移と推計

第1号被保険者に占める要介護等認定者の割合(認定率)は、今後も上昇していくことが見込まれ、令和22(2040)年には 22.14% になると推計されます。また、75歳以上では、令和22(2040)年には 35.89% になると推計されます。

第1号被保険者に占める要介護等認定者の割合(認定率)の推移と推計 (各年9月末日現在)



	実績			推計			
	令和3年 (2021)	令和4年 (2022)	令和5年 (2023)	令和6年 (2024)	令和7年 (2025)	令和8年 (2026)	令和22年 (2040)
第1号被保険者数 (人)	45,870	46,207	46,213	46,319	46,503	46,689	
65～74歳	21,211	20,658	20,378	20,419	20,500	20,582	
75歳以上	24,659	25,549	25,835	25,900	26,003	26,107	
要介護等認定者数 (人)	9,361	9,682	9,708	9,935	10,134	10,336	
65～74歳	945	924	904	928	947	966	
75歳以上	8,416	8,758	8,804	9,006	9,187	9,370	
認定率(%)	20.41	20.92	21.01	21.45	21.79	22.14	
65～74歳	4.46	4.47	4.44	4.55	4.62	4.69	
75歳以上	34.13	34.28	34.08	34.77	35.33	35.89	

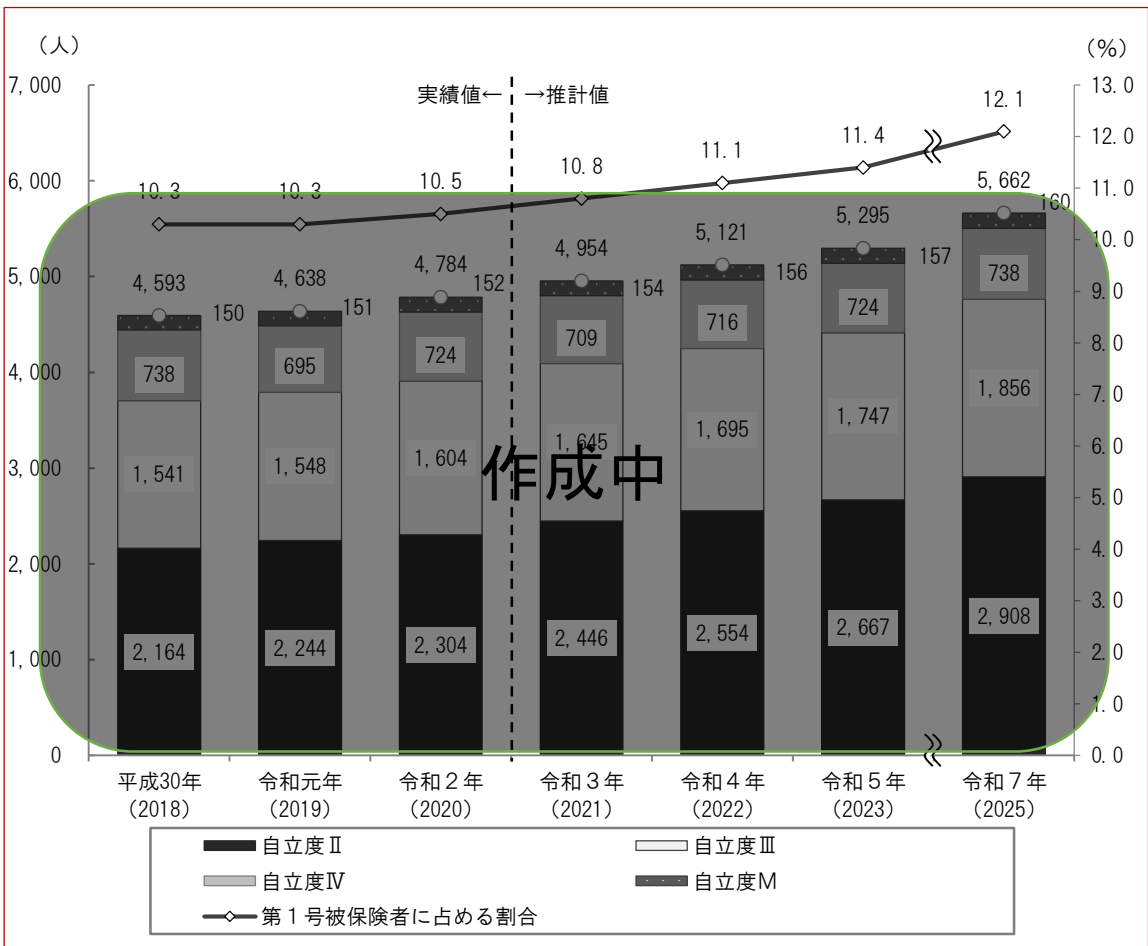
資料：小平市高齢者支援課推計

(7) 認知症高齢者数の推移と推計

認知症高齢者数は今後増加するものと見込まれており、令和22(2040)年には 人になると推計されます。第1号被保険者に占める認知症高齢者の割合も今後上昇するものと見込まれており、令和22(2040)年には %になると推計されます。

また、令和2年9月末日現在、認知症高齢者の %は在宅で生活をしています。

認知症高齢者数と第1号被保険者に占める認知症高齢者の割合の推移と推計（各年9月末日現在）



	実績			推計			
	令和3年 (2021)	令和4年 (2022)	令和5年 (2023)	令和6年 (2024)	令和7年 (2025)	令和8年 (2026)	令和22年 (20)
自立度Ⅱ(人)							
自立度Ⅲ(人)							
自立度Ⅳ(人)							
自立度Ⅴ(人)							
合計(人)							
第1号被保険者に 占める割合(%)							

資料：小平市高齢者支援課推計

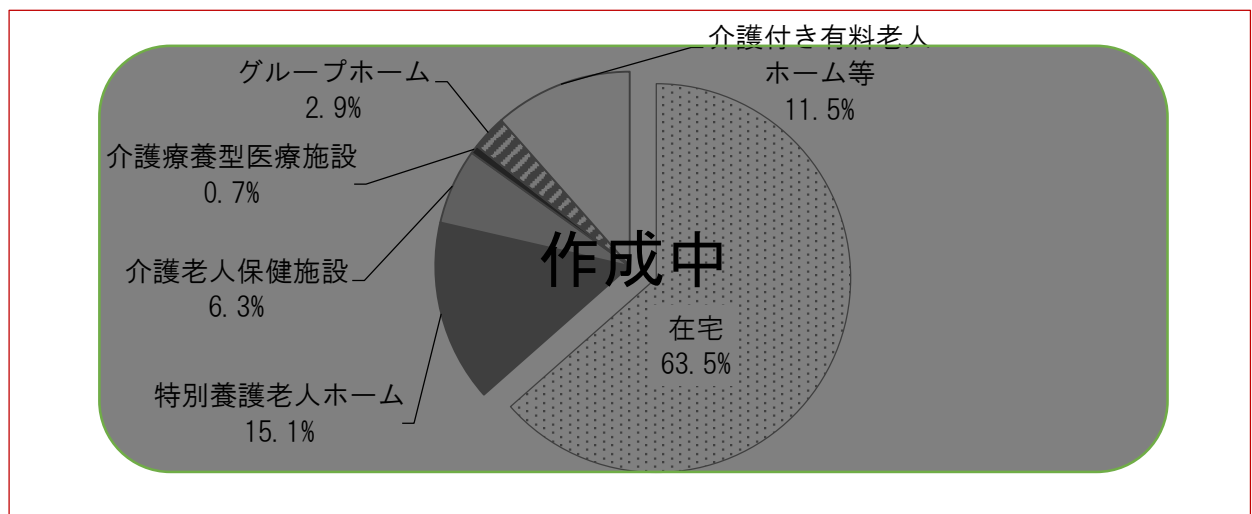
※認知症高齢者:要介護認定調査における日常生活自立度Ⅱ以上の高齢者

《参考》認知症高齢者の日常生活自立度判定基準

ランク	判断基準	見られる症状・行動の例
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。	
II	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。	
II a	家庭外で上記 II の状態が見られる。	たびたび道に迷うとか、買い物や事務、金銭管理などそれまでできたことにミスが目立つ等
II b	家庭内で上記 II の状態が見られる。	服薬管理ができない、電話の対応や訪問者との対応など一人で留守番ができない等
III	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さがときどき見られ、介護を必要とする。	
III a	日中を中心として上記 III の状態が見られる。	着替え、食事、排便、排尿が上手にできない、時間がかかる。 やたらに物を口に入れる、物を拾い集める、徘徊、失禁、大声・奇声を上げる、火の不始末、不潔行為、性的異常行為等
III b	夜間を中心として上記 III の状態が見られる。	ランク III a に同じ
IV	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。	ランク III に同じ
M	著しい精神症状や周辺症状あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。	せん妄、妄想、興奮、自傷・他傷等の精神症状や精神症状に起因する問題行動が継続する状態等

資料：「認知症高齢者の日常生活自立度判定基準」の活用について  
(平成 18 年 4 月 3 日老発 0403003 号)

認知症高齢者の在宅割合 (令和2年9月末日現在)



※在宅には入院中の人数を含む

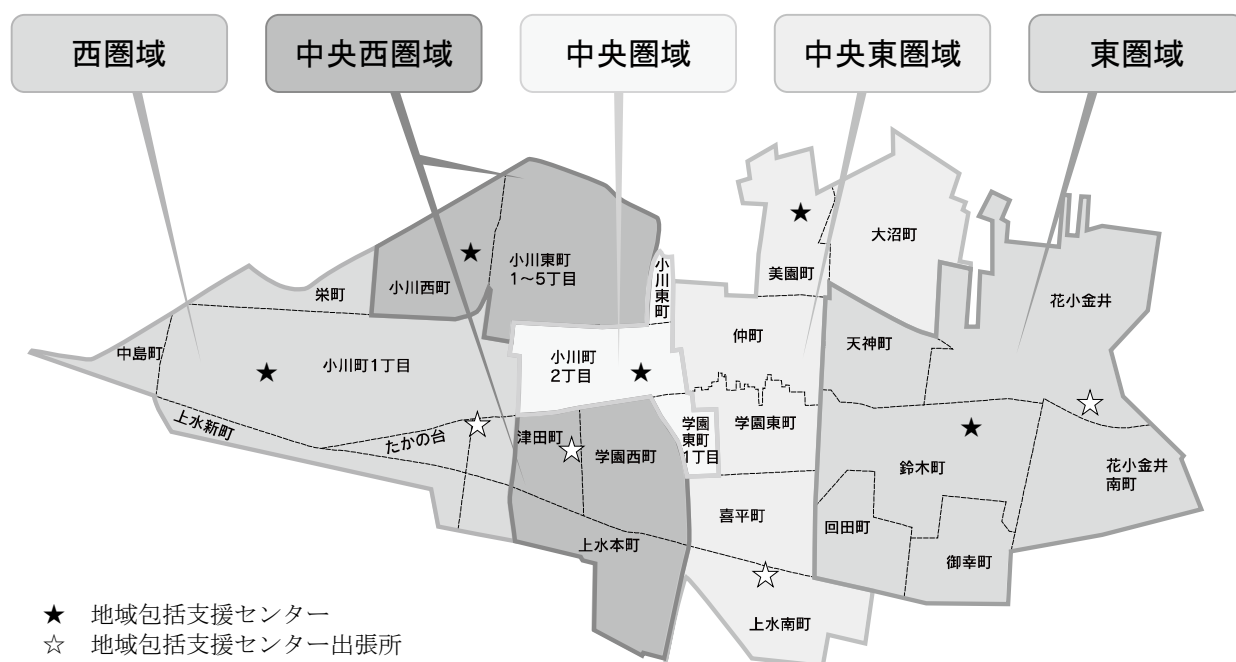
資料：小平市高齢者支援課作成

## 2 日常生活圏域別の現状

### (1) 日常生活圏域の区分

第3期介護保険事業計画から、地域の実情を踏まえたきめ細かい高齢者福祉・介護の環境づくりをめざすものとして、日常生活圏域の考え方が取り入れられました。

小平市では、地域の成り立ちや人口の分布状況などから、市内を5圏域に区分し、圏域ごとの中核拠点として地域包括支援センター（高齢者あんしん相談窓口）を設置しています。

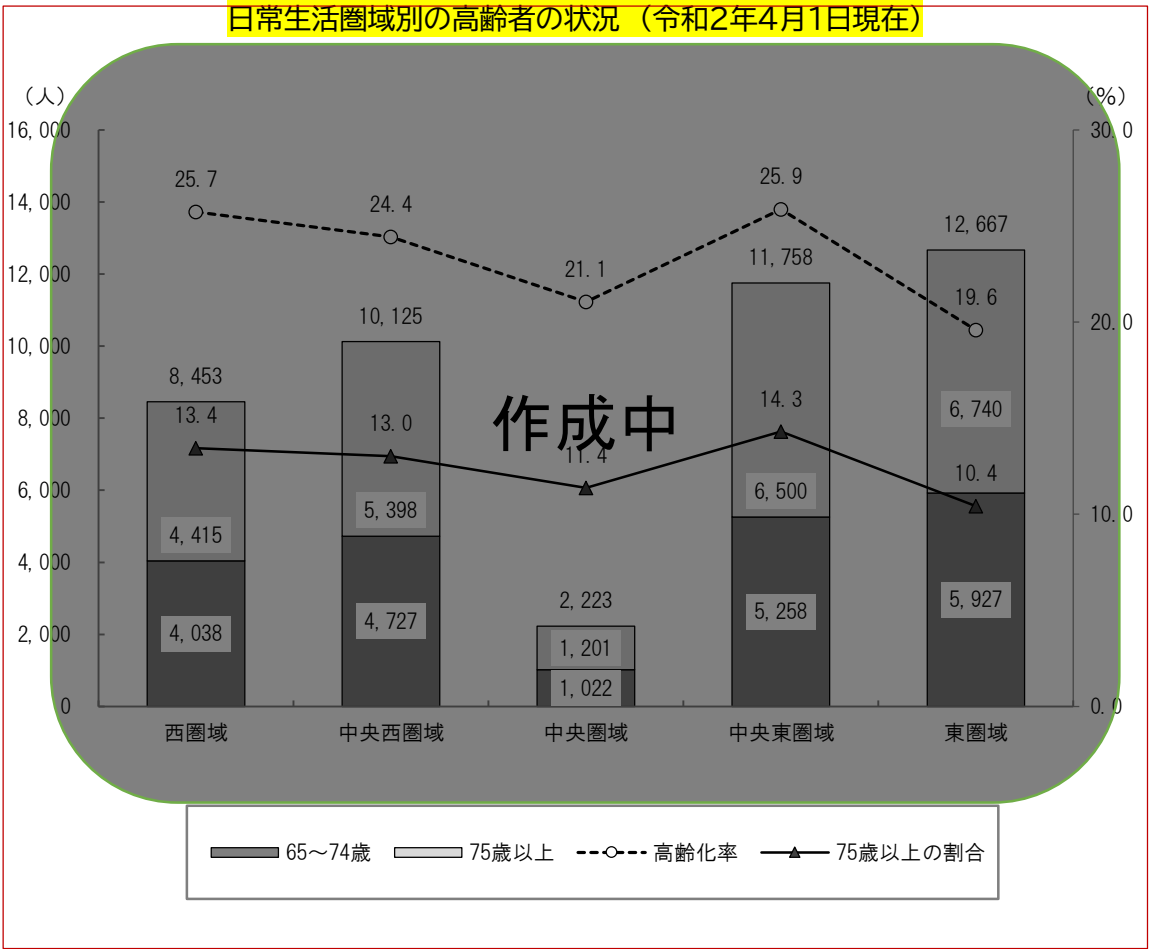


	西圏域	中央西圏域	中央圏域※	中央東圏域	東圏域
町名	栄町 1～3丁目 中島町 小川町 1丁目 たかの台 津田町 1丁目 上水新町 1～3丁目 上水本町 1丁目	小川西町 1～5丁目 小川東町 1～5丁目 津田町 2～3丁目 学園西町 1～3丁目 上水本町 2～6丁目	小川東町 小川町 2丁目 学園東町 1丁目	美園町 1～3丁目 大沼町 1～7丁目 仲町 学園東町 2～3丁目 学園東町 喜平町 1～3丁目 上水南町 1～4丁目	花小金井 1～8丁目 天神町 1～4丁目 鈴木町 1～2丁目 花小金井南町 1～3丁目 回田町 御幸町
地域包括支援センター	けやきの郷 けやきの郷 たかの台 出張所	小川ホーム 小川ホーム 四小通り 出張所	中央センター （基幹型）	多摩済生 ケアセンター 多摩済生 ケアセンター 喜平橋出張所	小平健成苑 小平健成苑 花小金井 出張所

※中央圏域を担当する中央センターは、基幹型地域包括支援センターとして、各地域包括支援センターの統括や連絡調整、後方支援、人材育成も行うため、担当する日常生活圏域は小区域としている。

(2) 高齢者の状況

日常生活圏域別の高齢者人口を見ると、東圏域が 人と最も多く、次いで中央東圏域が 人、中央西圏域が 人となっています。高齢化率を見ると、中央東圏域が %と最も高く、次いで西圏域が %、中央西圏域が %となっています。

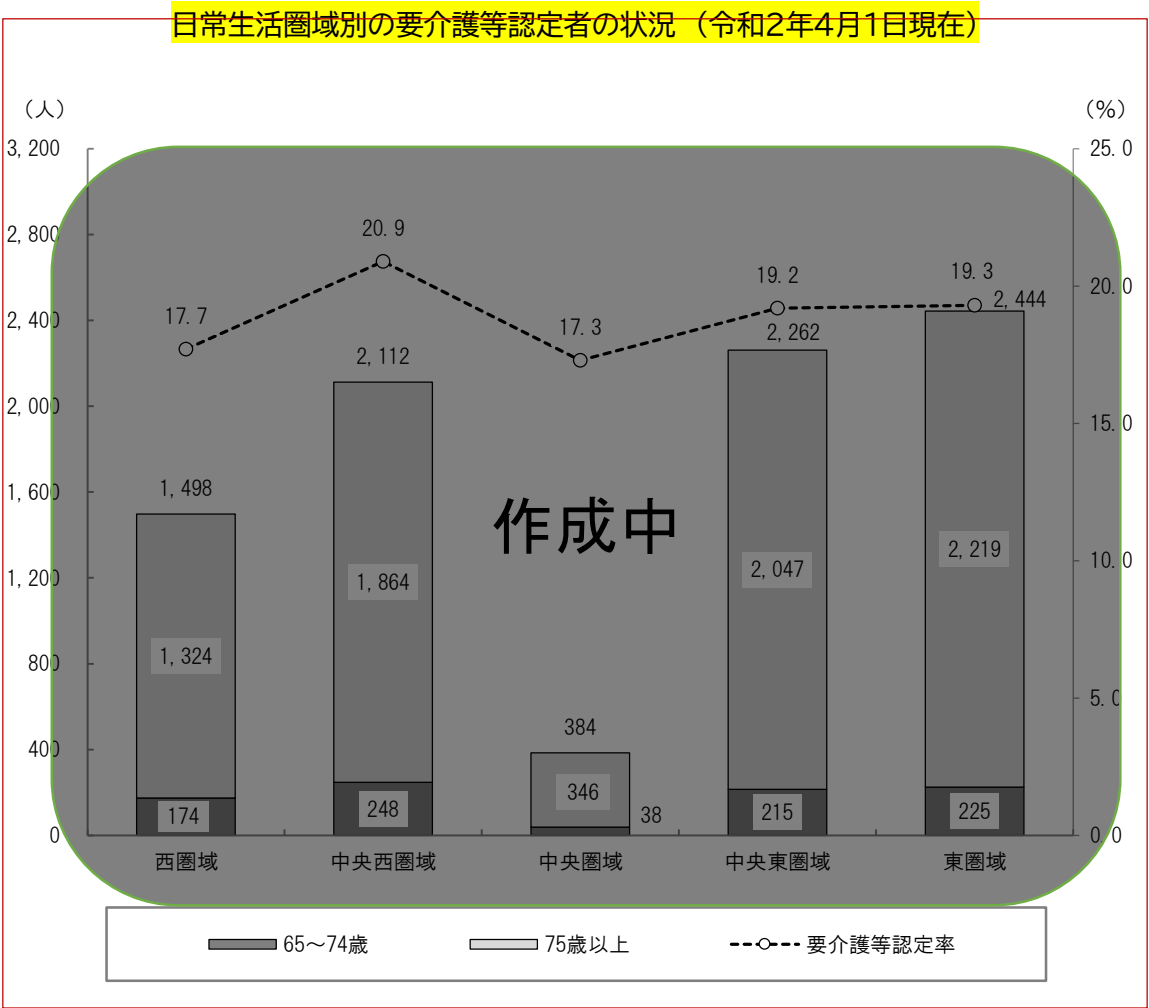


	西圏域	中央西圏域	中央圏域	中央東圏域	東圏域	合計
総人口(人)						
高齢者人口(人)						
65～74 歳						
75 歳以上						
高齢化率(%)						
65～74 歳						
75 歳以上						

資料：住民基本台帳

(3) 要介護等認定者の状況

日常生活圏域別の要介護等認定者数を見ると、東圏域が 人と最も多く、次いで中央東圏域が 人、中央西圏域が 人となっています。認定率を見ると、中央西圏域が %と最も高く、次いで東圏域が %、中央東圏域が %となっています。

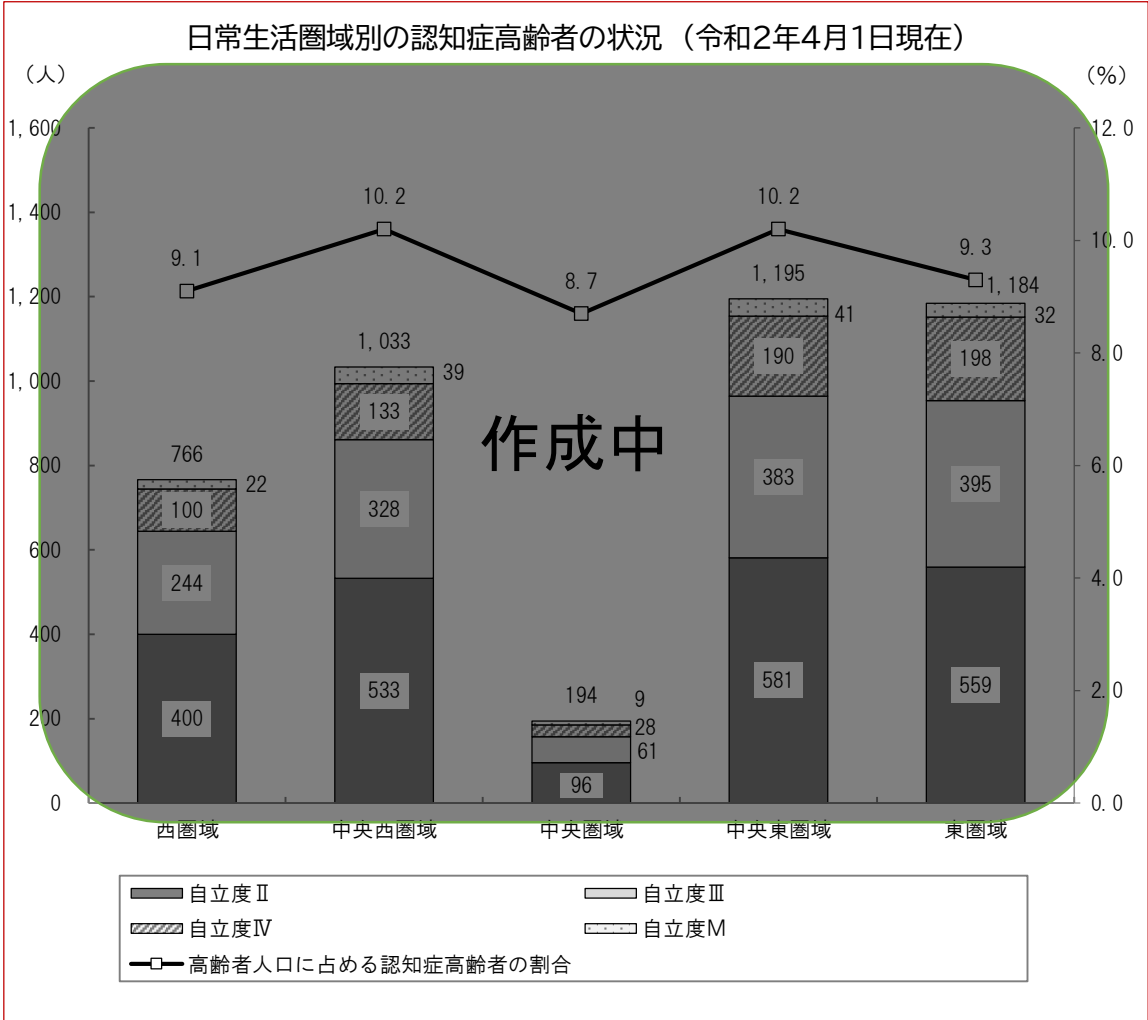


	西圏域	中央西圏域	中央圏域	中央東圏域	東圏域	合計
高齢者人口(人)						
65～74 歳						
75 歳以上						
要介護等認定者数(人)						
65～74 歳						
75 歳以上						
認定率(%)						
65～74 歳						
75 歳以上						

資料：小平市高齢者支援課作成

(4) 認知症高齢者の状況

日常生活圏域別の認知症高齢者数を見ると、中央東圏域が 人と最も多く、次いで東圏域が 人、中央西圏域が 人となっています。高齢者人口に占める認知症高齢者の割合を見ると、中央西圏域と中央東圏域が %と最も高く、次いで東圏域が %となっています。



	西圏域	中央西圏域	中央圏域	中央東圏域	東圏域	合計
自立度Ⅱ(人)						
自立度Ⅲ(人)						
自立度Ⅳ(人)						
自立度M(人)						
合計(人)						
高齢者人口(人)						
高齢者人口に占める 認知症高齢者の割合(%)						

資料：小平市高齢者支援課作成

※認知症高齢者:要介護認定調査における日常生活自立度Ⅱ以上の高齢者

# (5) 介護保険施設等の状況

日常生活圏域別の介護保険施設等の状況は、以下のようになっています。

日常生活圏域別の介護保険施設等の状況 (令和6年1月1日現在)

		西圏域	中央西圏域	中央圏域	中央東圏域	東圏域	合計
特別養護老人ホーム	施設数※						
	定員数						
介護老人保健施設	施設数						
	定員数						
介護療養型医療施設	施設数						
	定員数						
介護付有料老人ホーム (特定施設入居者生活介護)	施設数						
	定員数						
認知症高齢者 グループホーム	施設数						
	定員数						
住宅型有料老人ホーム	施設数						
	定員数						
サービス付き高齢者向け 住宅	施設数						
	定員数						
高齢者住宅 (シルバーピア)	棟数						
	戸数						

作成中

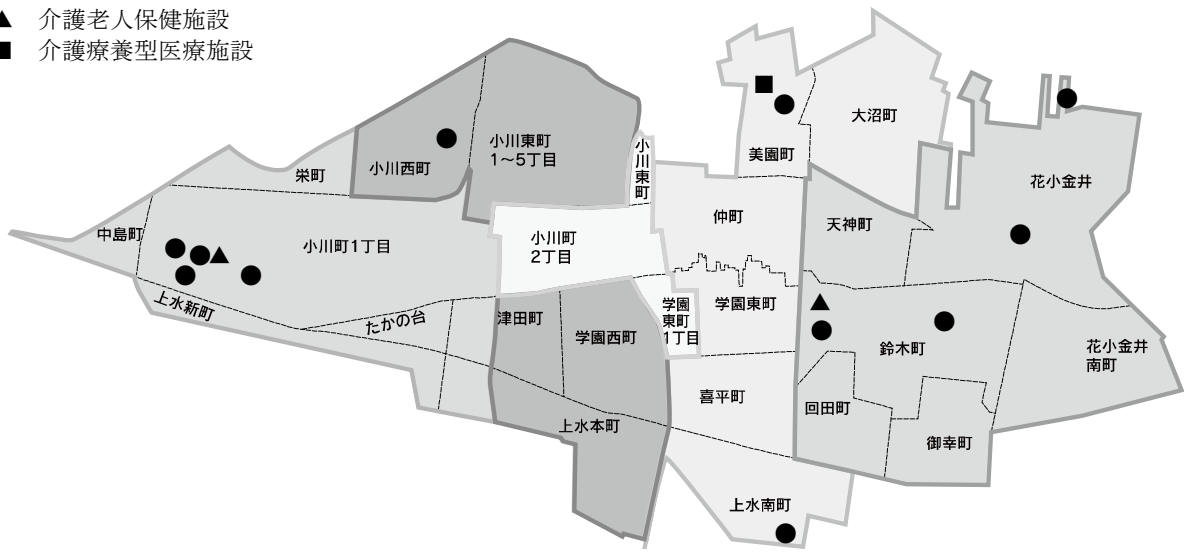
資料：小平市高齢者支援課作成

※同一建物で2つの指定を受けている特別養護老人ホームは、1か所と換算している。

## 小平市の介護保険施設等の分布図

### ①特別養護老人ホーム・介護老人保健施設・介護療養型医療施設

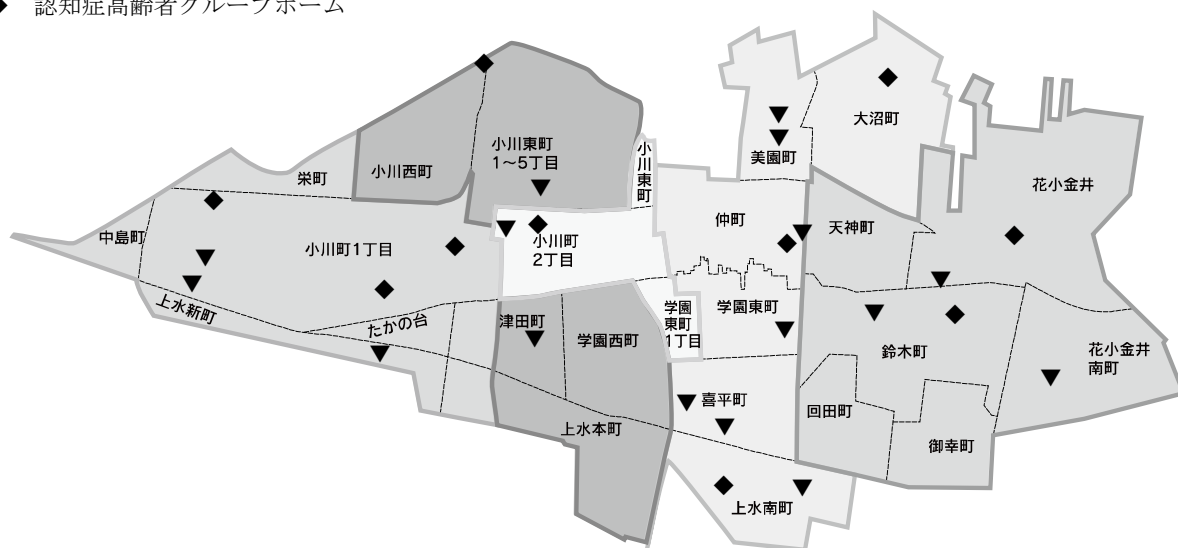
- 特別養護老人ホーム
- ▲ 介護老人保健施設
- 介護療養型医療施設





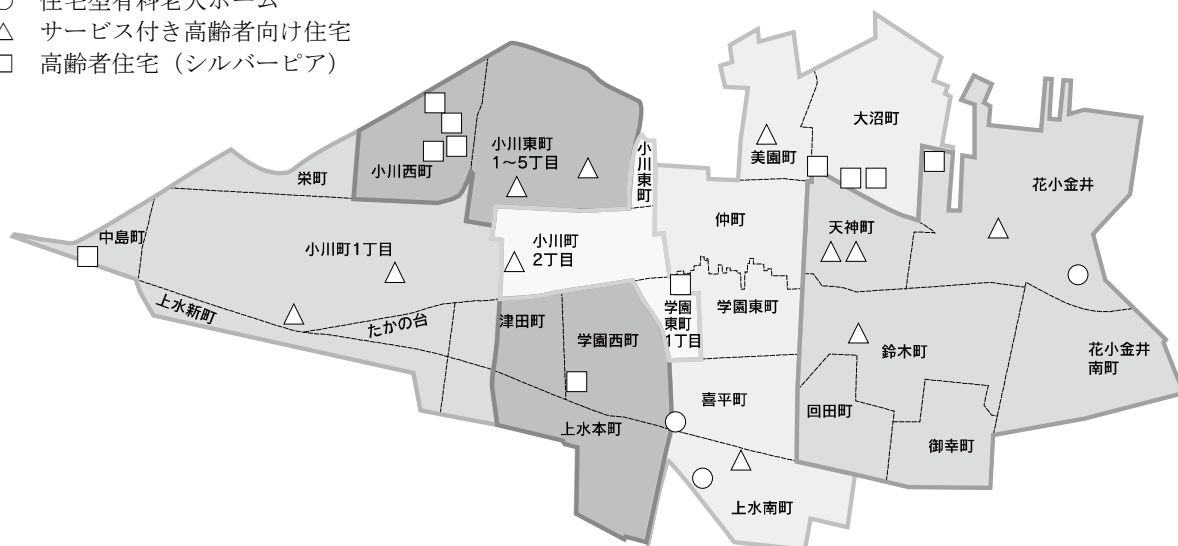
## ②介護付有料老人ホーム・認知症高齢者グループホーム

- ▼ 介護付有料老人ホーム
- ◆ 認知症高齢者グループホーム



## ③住宅型有料老人ホーム・サービス付き高齢者向け住宅・高齢者住宅（シルバーピア）

- 住宅型有料老人ホーム
- △ サービス付き高齢者向け住宅
- 高齢者住宅（シルバーピア）



## (6) 生活機能評価の回答結果から見た各圏域別の状況

### ①生活機能評価の概要

市では、65歳以上の高齢者に対して、厚生労働省が示している「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査実施の手引き」に基づく生活機能に関する調査を行っています。

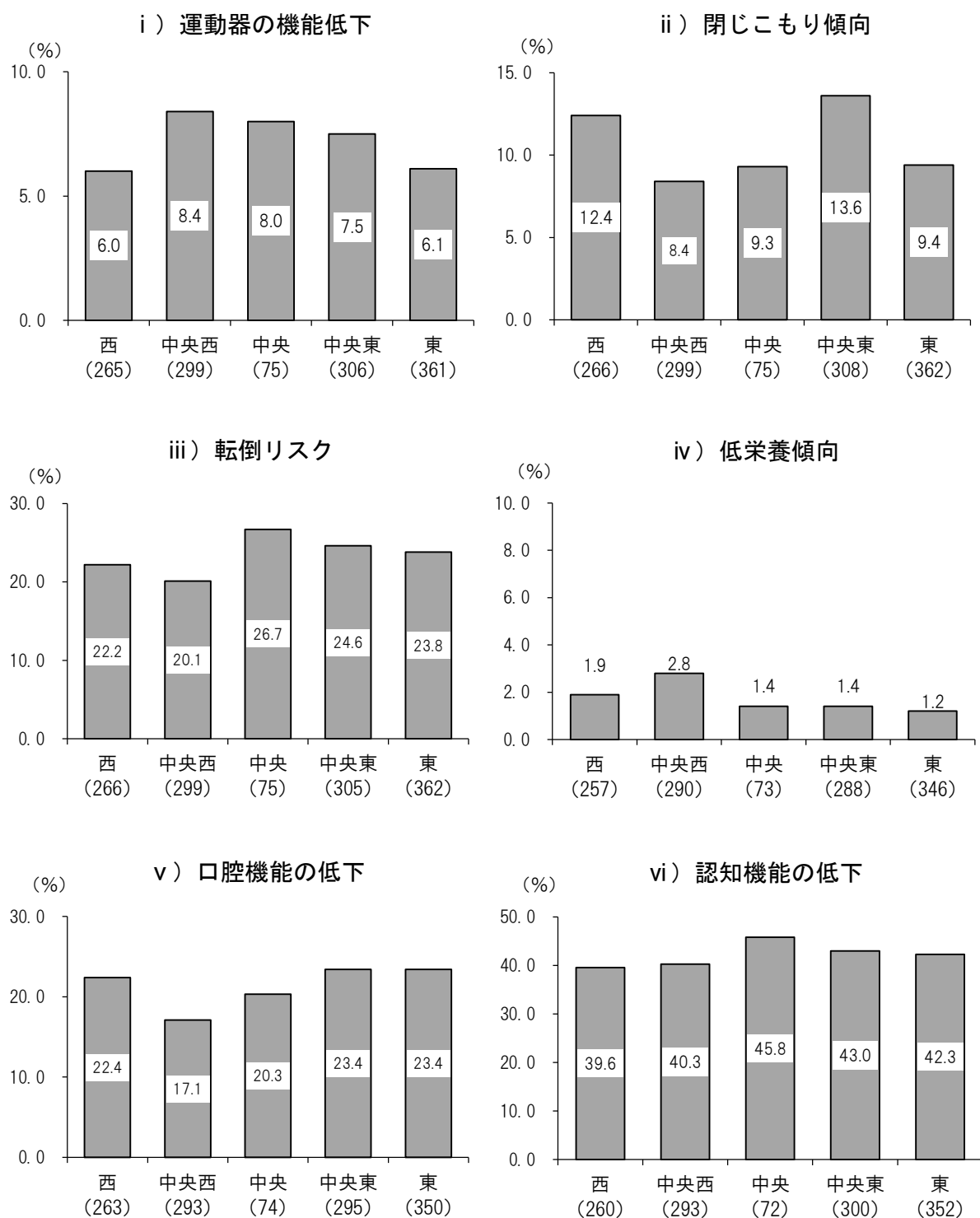
判定の基礎となる設問は下表となり、以下の設問に該当する場合にリスク該当者として判定されます。

- i) 運動器の機能低下：5項目のうち3項目以上に該当する人
- ii) 閉じこもり傾向：該当する人
- iii) 転倒リスク：該当する人
- iv) 低栄養傾向：2項目のすべてに該当する人
- v) 口腔機能の低下：3項目のうち2項目以上に該当する人
- vi) 認知機能の低下：該当する人
- vii) うつ傾向：2項目のうち1項目以上に該当する人

項目	設問	該当する選択肢
運動器の機能低下	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。	3. できない
	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。	3. できない
	15分位続けて歩いていますか。	3. できない
	過去1年間に転んだ経験がありますか。	1. 何度もある 2. 1度ある
	転倒に対する不安は大きいですか。	1. とても不安である 2. やや不安である
閉じこもり傾向	週に1回以上は外出していますか。	1. ほとんど外出しない 2. 週1回
転倒リスク	過去1年間に転んだ経験がありますか。	1. 何度もある 2. 1度ある
低栄養傾向	身長・体重をご記入ください。	BMI18.5以下
	この6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか。	1. はい
口腔機能の低下	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。	1. はい
	お茶や汁物等でむせることがありますか。	1. はい
	口の渇きが気になりますか。	1. はい
認知機能の低下	物忘れが多いと感じますか。	1. はい
うつ傾向	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。	1. はい
	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。	1. はい

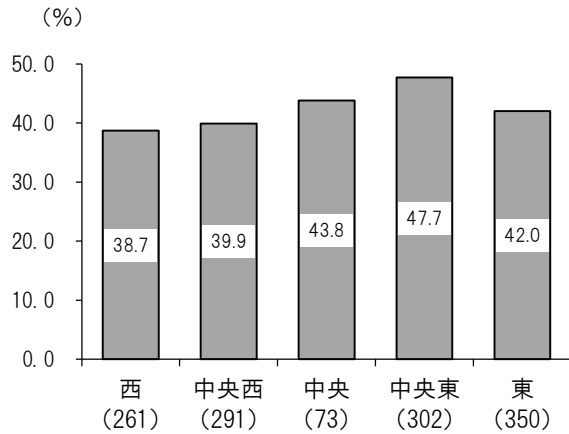
## ②生活機能評価の回答結果から見た各圏域別の状況

令和4（2022）年度実施の生活機能評価回答結果から各圏域別の状況を見ると、運動器の機能低下と低栄養傾向は中央西圏域で、閉じこもり傾向と口腔機能の低下とうつ傾向は中央東圏域で、転倒リスクと認知機能の低下は中央圏域で、それぞれ該当する方の割合がやや高くなっています。



※各圏域の（ ）内は有効回答数

vii) うつ傾向



※各圏域の（ ）内は有効回答数

上段：人数、下段：%

	西圏域	中央西圏域	中央圏域	中央東圏域	東圏域
有効回答数合計	266	299	75	306	361
運動器の機能低下該当者	16	25	6	23	22
	6.0	8.4	8.0	7.5	6.1
閉じこもり傾向該当者	33	25	7	42	34
	12.4	8.4	9.3	13.6	9.4
転倒リスク該当者	59	60	20	75	86
	22.2	20.1	26.7	24.6	23.8
低栄養傾向該当者	5	8	1	4	4
	1.9	2.8	1.4	1.4	1.2
口腔機能の低下該当者	59	50	15	69	82
	22.4	17.1	20.3	23.4	23.4
認知機能の低下該当者	103	118	33	129	149
	39.6	40.3	45.8	43.0	42.3
うつ傾向該当者	101	116	32	144	147
	38.7	39.9	43.8	47.7	42.0

### 3 アンケート調査結果に見る高齢者の現状

#### (1) アンケート調査の概要

##### ①調査の目的

本計画の基礎資料とするため、高齢者の生活状況や支援サービスの利用意向、要支援・要介護認定を受けた方のサービス利用実態、意向等を把握し、今後の高齢者福祉施策や介護保険サービスの基盤整備、新たな施策の対応等に資することを目的に実施しました。

##### ②調査対象

- i) 一般高齢者アンケート（要支援・要介護認定者を除く）  
小平市にお住まいの 65 歳以上の高齢者 2,000 人
- ii) 介護保険サービス利用状況アンケート  
介護保険の在宅サービスを利用されている方 1,800 人
- iii) 介護保険サービス利用状況アンケート  
介護保険の施設・居住系サービスを利用されている方 900 人
- iv) 介護保険サービス利用状況アンケート  
介護保険サービスを利用されていない方 900 人
- v) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（要介護認定者を除く）  
小平市にお住まいの 65 歳以上の高齢者 2,000 人
- vi) 介護支援専門員（ケアマネジャー）アンケート  
市内居宅介護支援事業所の介護支援専門員（ケアマネジャー） 133 人

##### ③調査期間

令和 4（2022）年 11 月 21 日から 12 月 20 日まで

##### ④回収状況

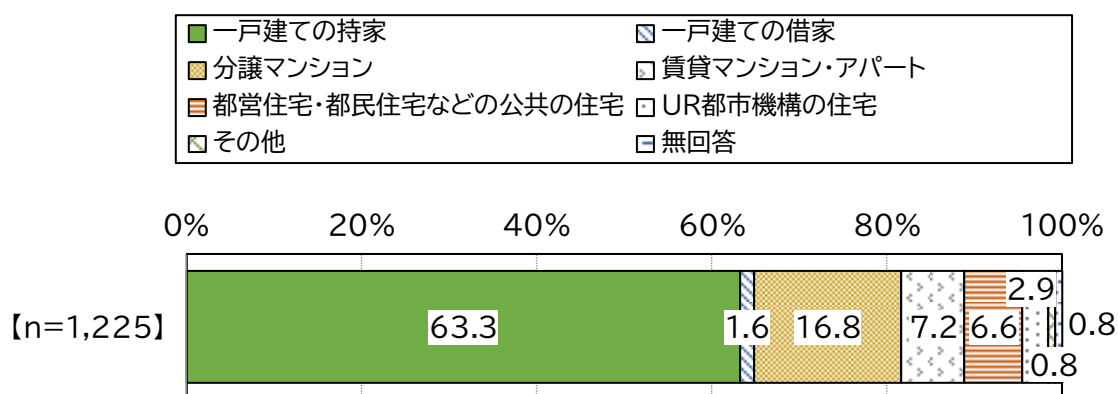
種類		配布数	有効回収数	有効回収率
i	一般高齢者	2,000	1,225	61.3%
ii	在宅サービス利用者	1,800	1,032	57.3%
iii	施設・居住系サービス利用者	900	420	46.7%
iv	介護保険サービス未利用者	900	532	59.1%
v	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	2,000	1,325	66.3%
vi	介護支援専門員（ケアマネジャー）	133	111	83.5%
合計		7,733	4,645	60.1%

## (2) アンケート調査結果

### ①住まいに関すること

#### ○住まいの種類（一般高齢者 問6）

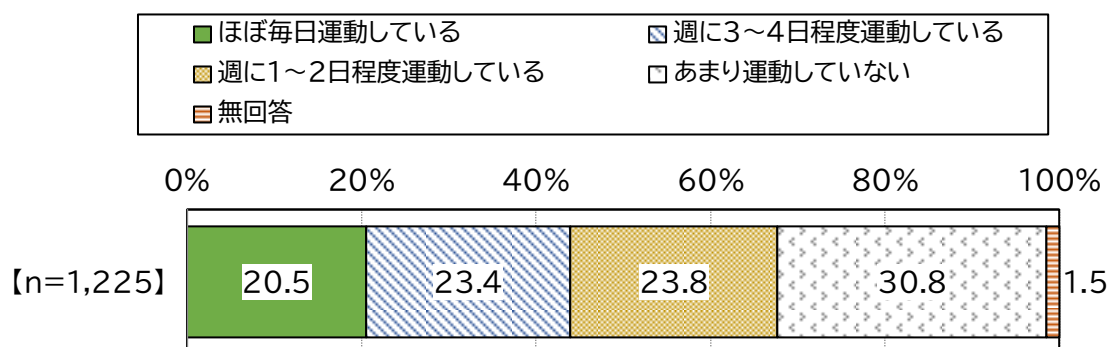
「一戸建ての持家」が63.3%と最も高く、次いで「分譲マンション」が16.8%、「賃貸マンション・アパート」が7.2%となっています。



### ②介護予防事業などへの関心

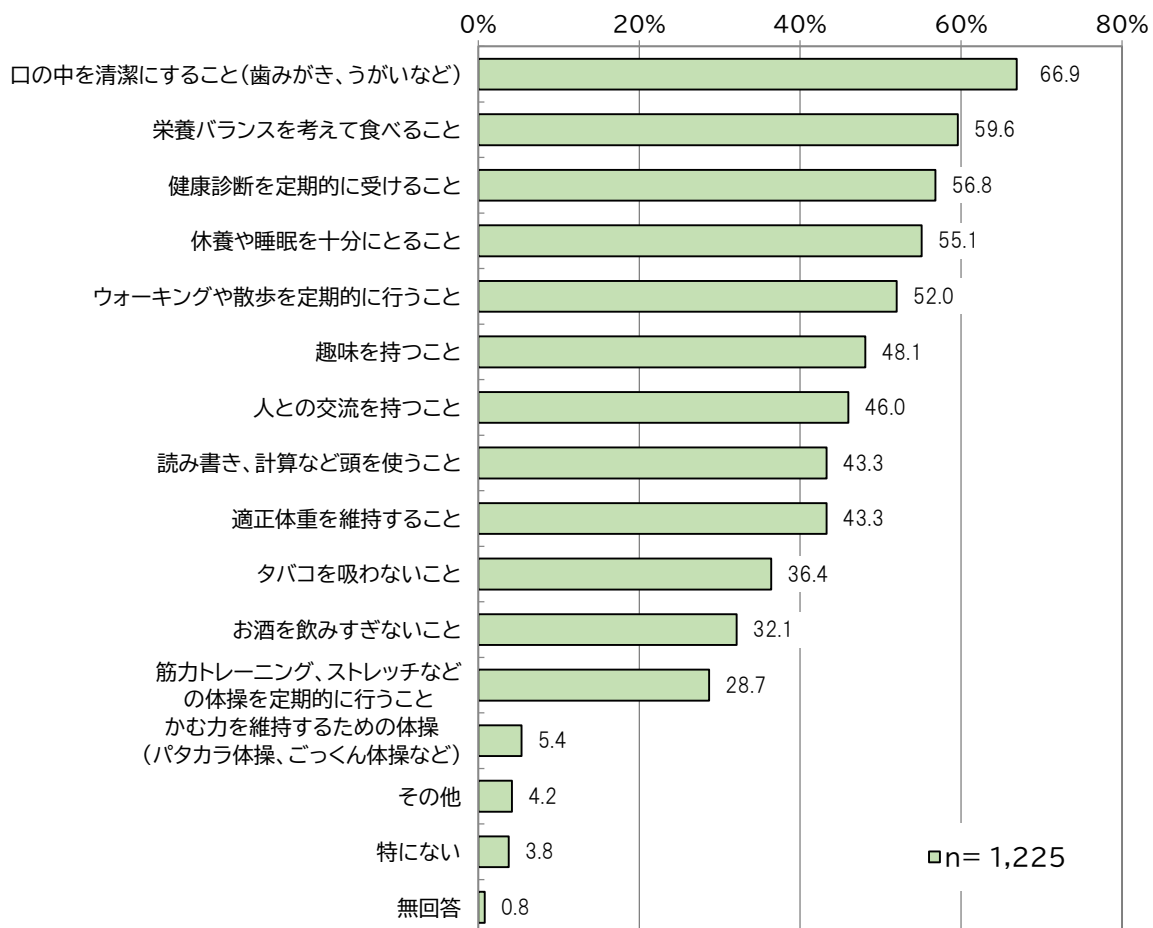
#### ○定期的な運動（一般高齢者 問10）

「ほぼ毎日運動している」、「週に3～4日程度運動している」、「週に1～2日程度運動している」をあわせた“週1回以上運動している”が67.7%となっています。「あまり運動していない」が30.8%となっています。



○元気で過ごしていくために行っていること（一般高齢者 問 11）

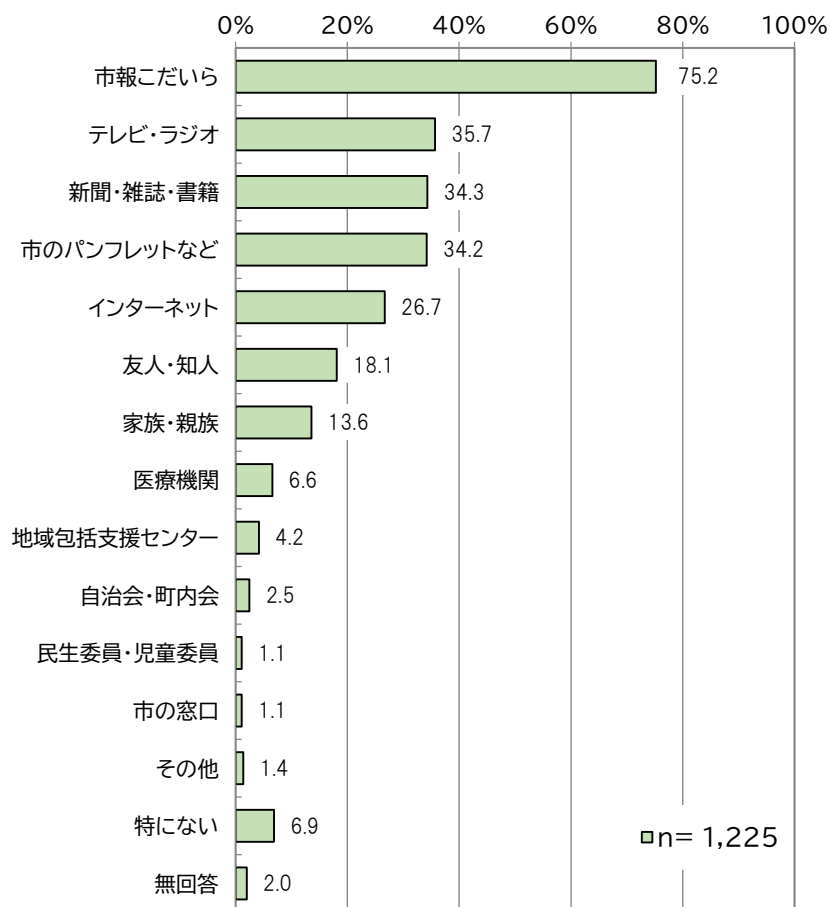
「口の中を清潔にすること」が66.9%と最も高く、次いで「栄養バランスを考えて食べること」が59.6%、「健康診断を定期的に受けること」が56.8%、「休養や睡眠を十分にとること」が55.1%となっています。



### ③情報入手手段・広報

○介護や保健・福祉に関する情報の入手手段 上位5項目（一般高齢者 問18）

「市報こだいら」が75.2%と最も高く、次いで「テレビ・ラジオ」が35.7%、「新聞・雑誌・書籍」が34.3%となっています。



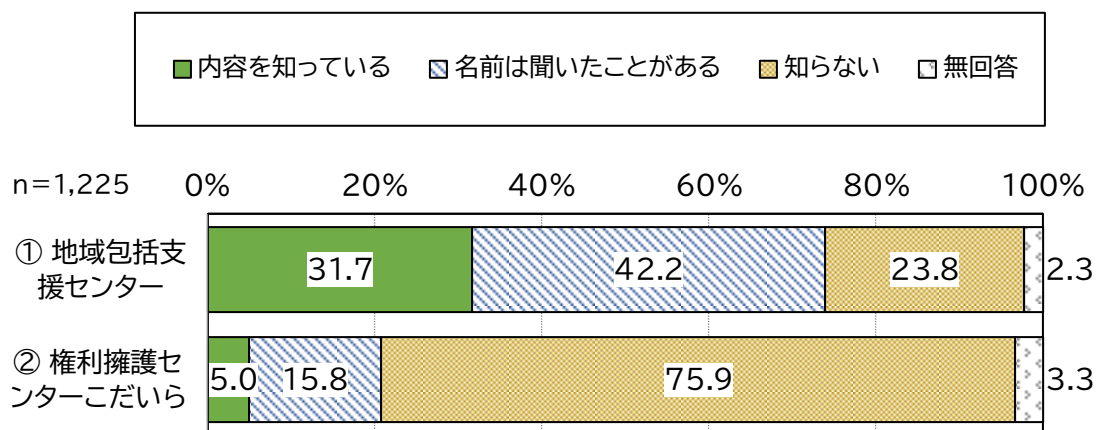


#### ④相談窓口に関すること

○相談窓口の認知度（一般高齢者 問19）

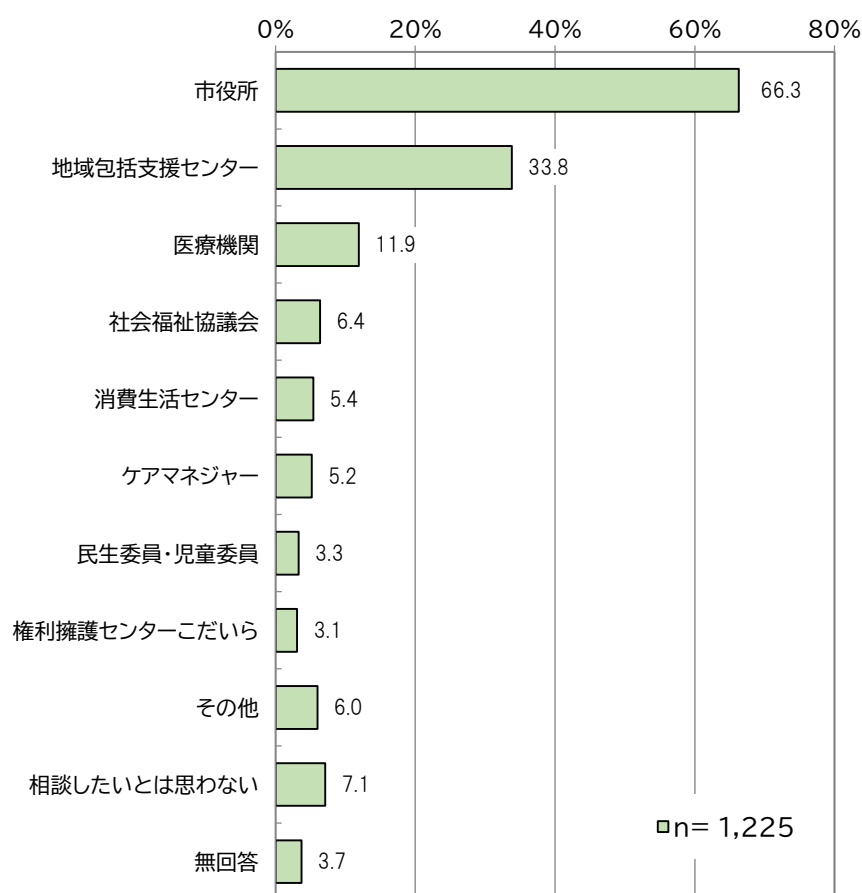
①の地域包括支援センターについては、「内容を知っている」が31.7%、「名前は聞いたことがある」が42.2%と、約7割の方に知られています。

②の権利擁護センターこだいらについては、「内容を知っている」が5.0%、「名前は聞いたことがある」が15.8%で、約2割の方に知られています。



○相談する窓口（一般高齢者 問20）

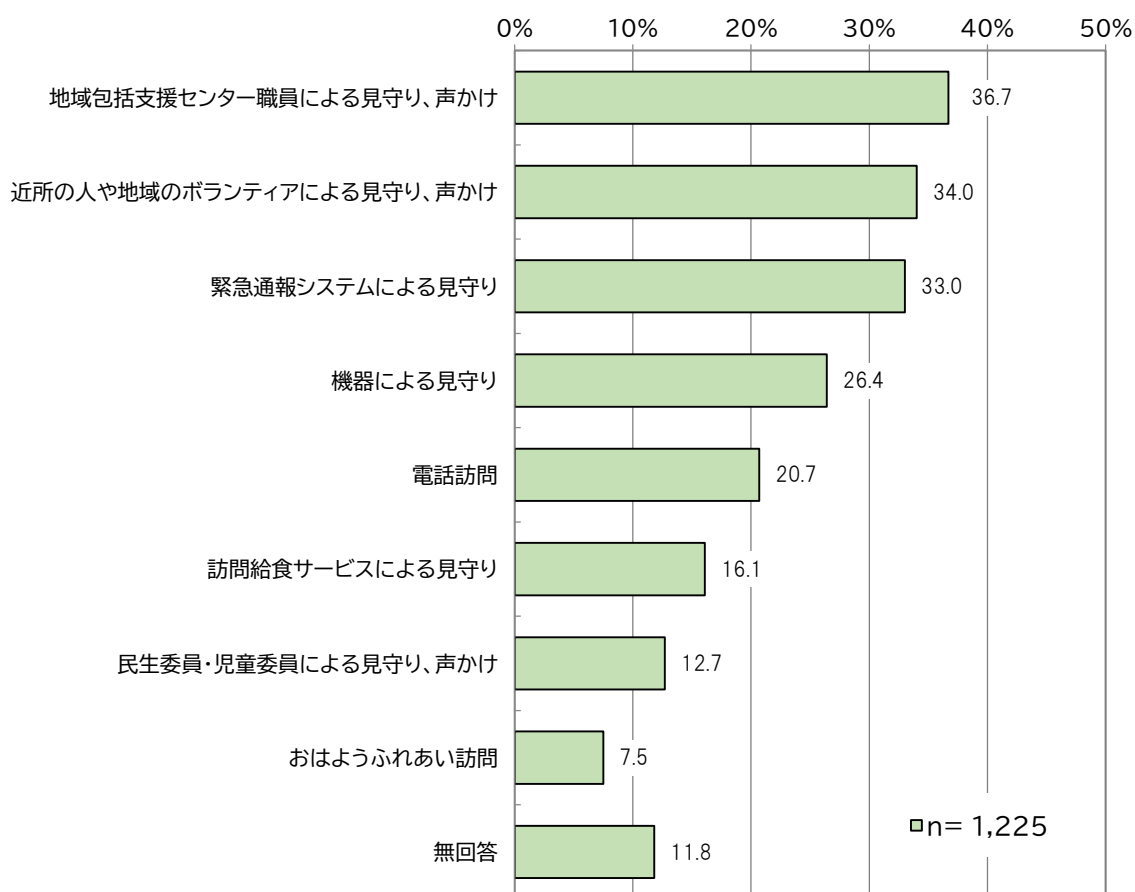
「市役所」が66.3%と最も高く、次いで「地域包括支援センター」が33.8%となっています。「相談したいとは思わない」の割合が7.1%となっています。



## ⑤見守りに関する取組

○希望する見守りや声かけの方法（一般高齢者 問 21）

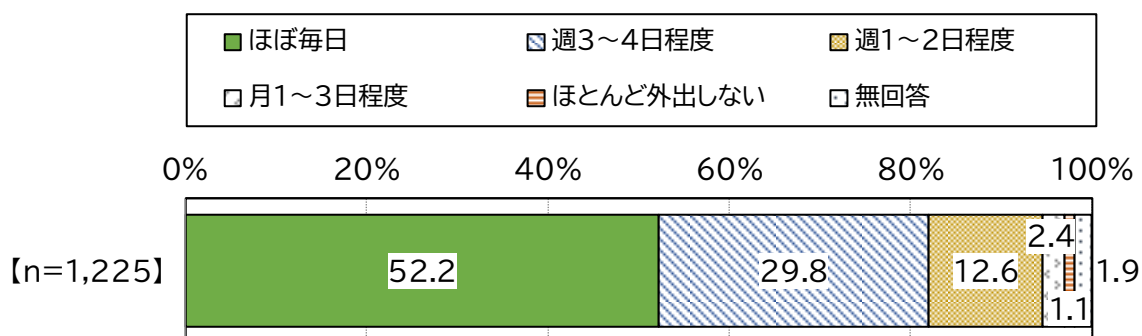
「地域包括支援センター職員による見守り、声かけ」が36.7%と最も高く、次いで「近所の人や地域のボランティアによる見守り、声かけ」が34.0%、「緊急通報システムによる見守り」が33.0%となっています。



## ⑥外出・移動について

○外出の頻度（一般高齢者 問 14）

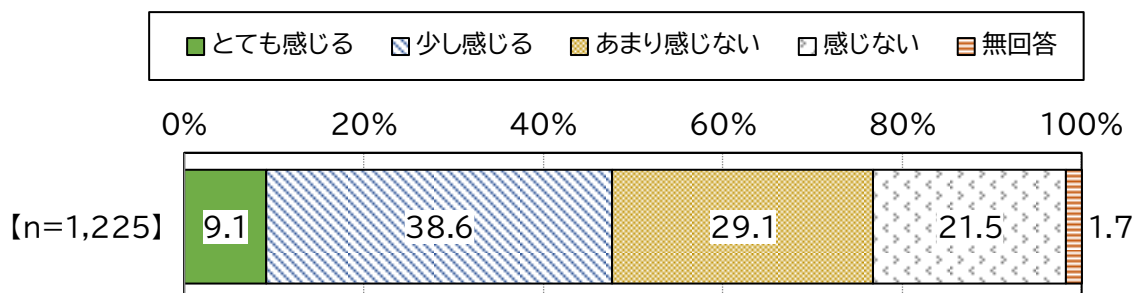
「ほぼ毎日」が52.2%と最も高く、次いで「週3～4日程度」が29.8%、「週1～2日程度」が12.6%となっています。



## ⑦地域とのつながり、交流

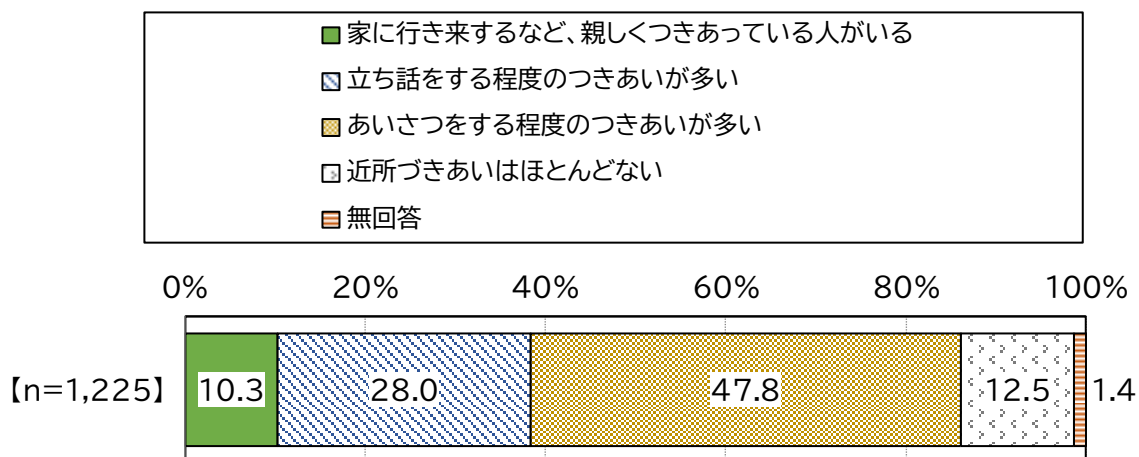
### ○地域とのつながりの実感（一般高齢者 問 22）

「とても感じる」と「少し感じる」をあわせた“感じる”が47.7%、「あまり感じない」と「感じない」をあわせた“感じない”が50.6%となっています。



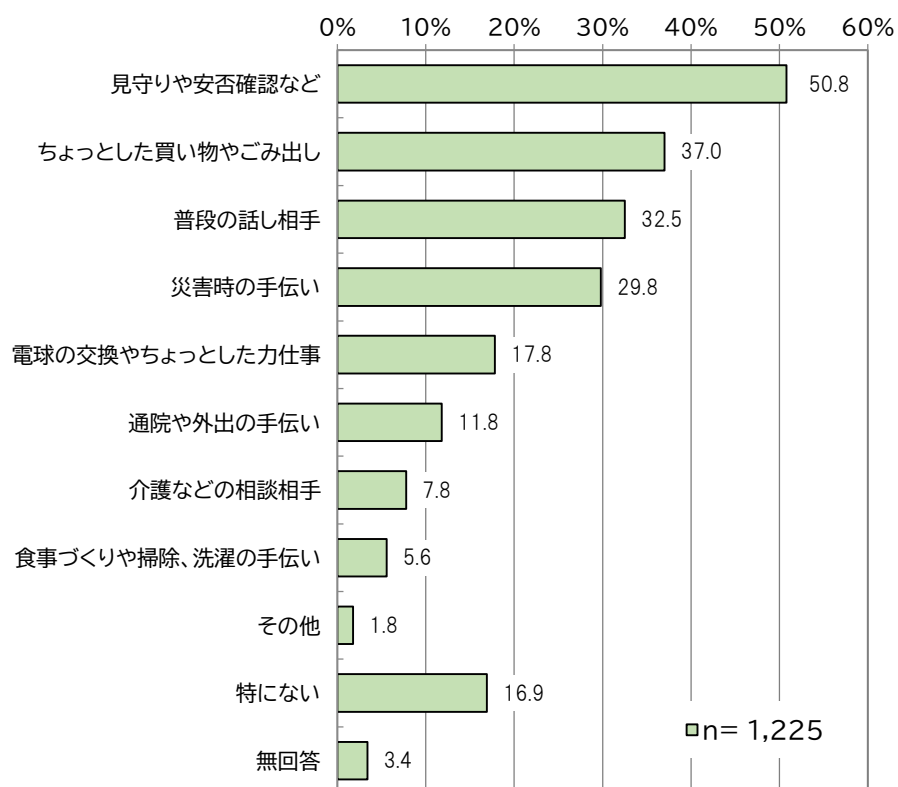
### ○近所づきあいの程度（一般高齢者 問 23）

「あいさつをする程度のつきあいが多い」が47.8%と最も高く、次いで「立ち話をする程度のつきあいが多い」が28.0%、「家に行き来するなど、親しくつきあっている人がある」が10.3%となっています。



○地域で困っている世帯に対してあなた自身ができる手助け （一般高齢者 問 25）

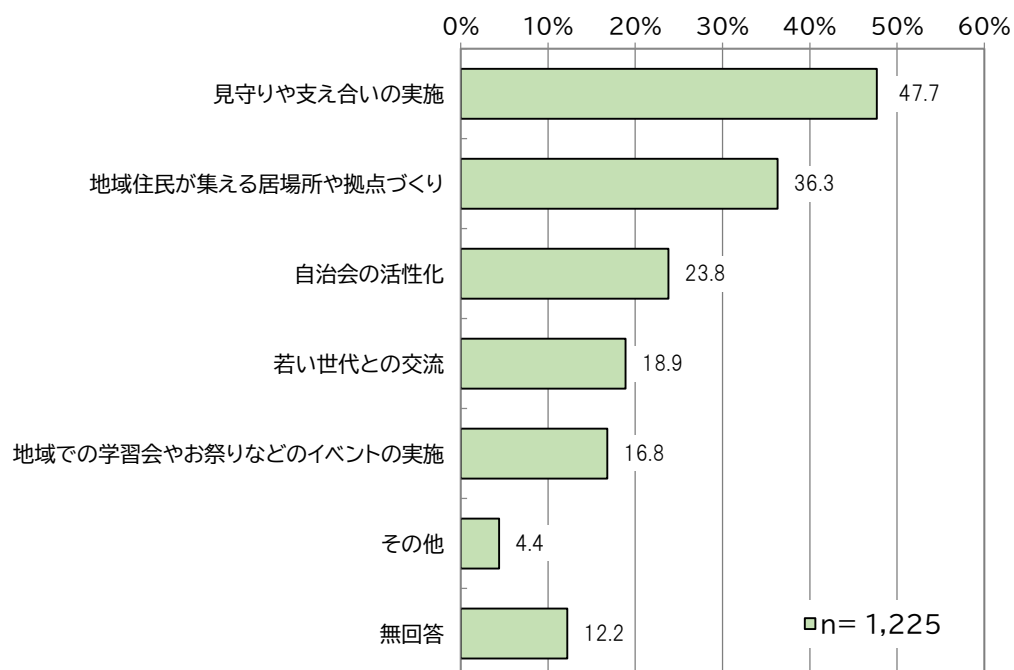
「見守りや安否確認など」が50.8%と最も高く、次いで「ちょっとした買い物やごみ出し」が37.0%、「普段の話し相手が32.5%となっています。



## ⑧地域活動への参加

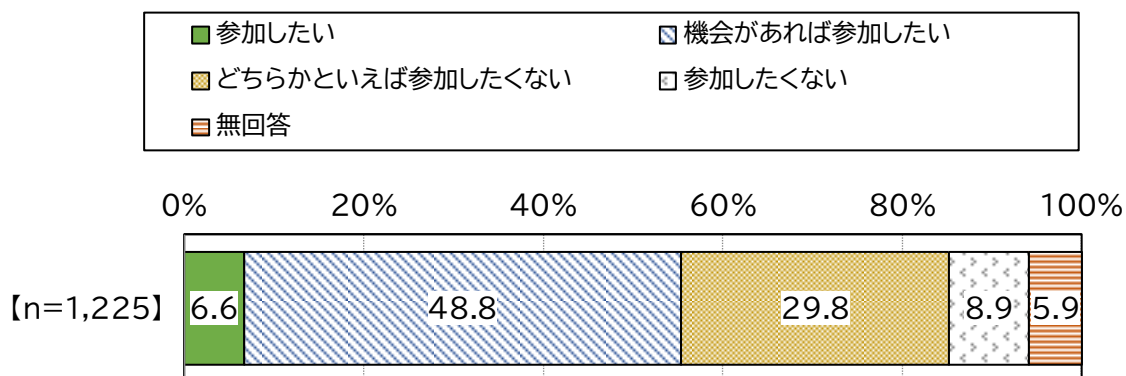
○地域住民が助け合える地域を作るための有効な手段 （一般高齢者 問 26）

「見守りや支え合いの実施」が47.7%と最も高く、次いで「地域住民が集える居場所や拠点づくり」が36.3%、「自治会の活性化」が23.8%となっています。



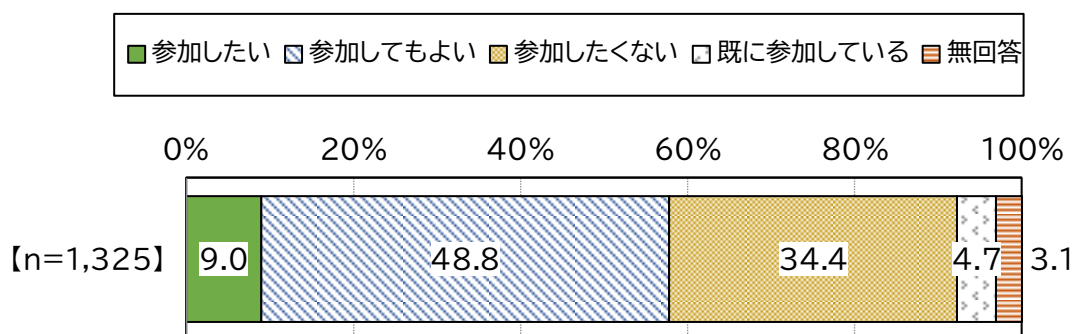
○地域の交流の場（通いの場など）への参加意向（一般高齢者 問27）

「参加したい」と「機会があれば参加したい」をあわせた“参加したい”の割合が55.4%、「どちらかといえば参加したくない」と「参加したくない」をあわせた“参加したくない”の割合が38.7%となっています。



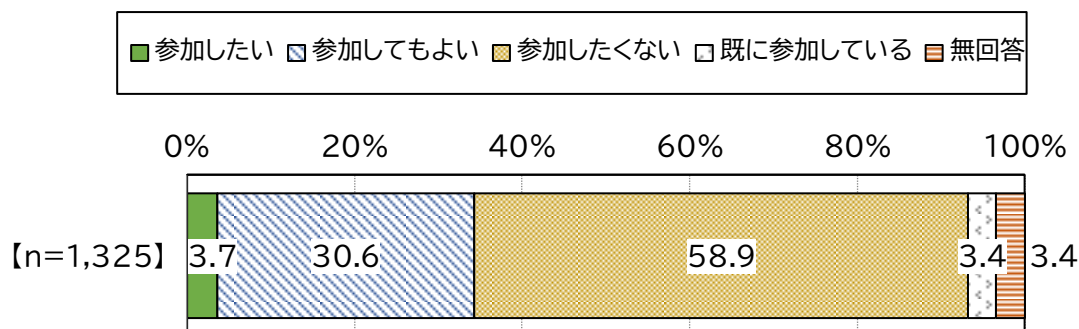
○地域住民による活動への参加意向（介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 問34）

「参加してもよい」が48.8%と最も高く、次いで「参加したくない」が34.4%、「参加したい」が9.0%となっています。



○活動に運営として参加（介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 問35）

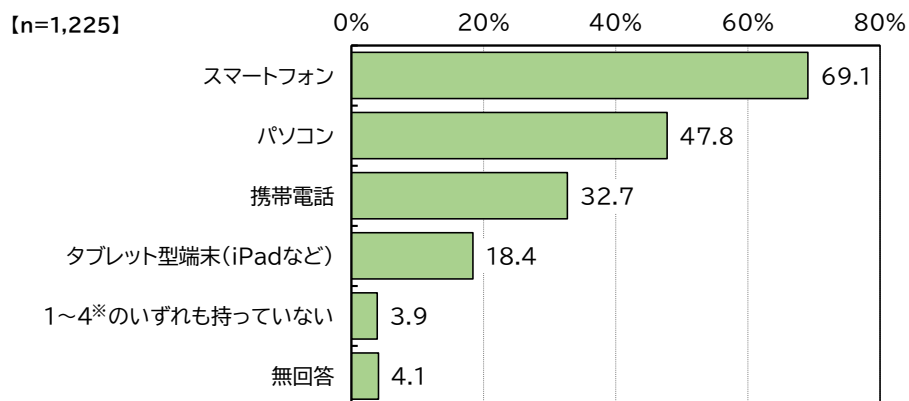
「参加したくない」が58.9%と最も高く、次いで「参加してもよい」が30.6%となっています。



## ⑨情報機器の利用について

○情報機器の所有状況（一般高齢者 問 30）

「スマートフォン」が69.1%で最も高く、次いで「パソコン」が47.8%、「携帯電話」が32.7%、「タブレット型端末（iPad など）」が18.4%、「1～4のいずれも持っていない」が3.9%となっています。



※1～4とは、1「スマートフォン」、2「パソコン」、3「携帯電話」、4「タブレット型端末（iPad など）」をいう。

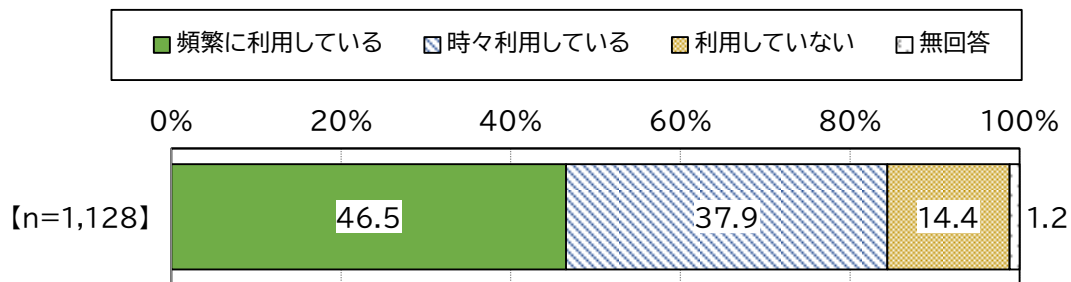
### 【年齢別】

年齢別にみると、65～79歳で「スマートフォン」が他と比べて高くなっています。また、年齢が低くなるにつれて「パソコン」と「タブレット型端末（iPad）」が高くなっています。

区分	有効回答数 (件)	パソコン	携帯電話	スマートフォン	タブレット型端末 (iPad など)	1～4のいずれも持っていない	無回答
65～69 歳	437	62.7	27.5	83.1	23.6	1.6	1.4
70～74 歳	497	45.3	32.6	68.6	19.3	4.0	4.0
75～79 歳	131	36.6	34.4	62.6	13.7	2.3	6.9
80～84 歳	94	27.7	50.0	39.4	6.4	8.5	5.3
85～89 歳	42	23.8	47.6	33.3	—	16.7	14.3
90 歳以上	15	13.3	26.7	33.3	—	20.0	13.3

○人との交流におけるメールや SNS の利用（一般高齢者 問 31）

「頻繁に利用している」が 46.5%で最も高く、次いで「時々利用している」が 37.9%、「利用していない」が 14.4%となっています。

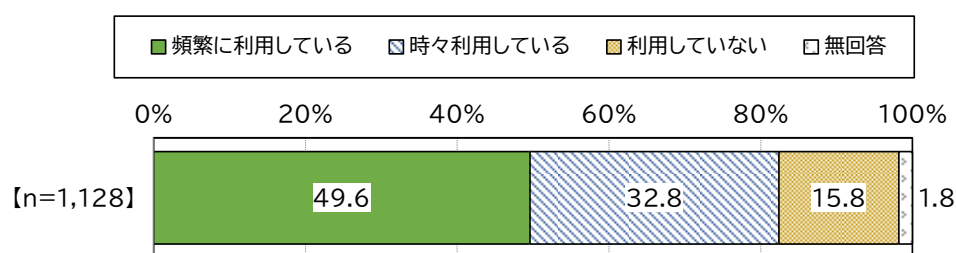


【年齢別】

年齢別にみると、65～79 歳で「頻繁に利用している」が最も高くなっています。80 歳以上では「時々利用している」が最も高くなっています。

区分	有効回答数 (件)	頻繁に 利用して いる	時々 利用して いる	利用 してい ない	無回 答
65～69 歳	424	56.1	34.7	9.0	0.2
70～74 歳	458	45.0	39.5	14.4	1.1
75～79 歳	119	43.7	39.5	16.0	0.8
80～84 歳	81	25.9	42.0	29.6	2.5
85～89 歳	29	17.2	41.4	27.6	13.8
90 歳以上	10	20.0	40.0	40.0	-

○普段の生活（買い物、仕事、調べものなど）での情報機器の利用（一般高齢者 問 32）  
「頻繁に利用している」が49.6%で最も高く、次いで「時々利用している」が32.8%、「利用していない」が15.8%となっています。



#### 【年齢別】

年齢別にみると、65～79 歳では「頻繁に利用している」が最も高くなっています。80 歳以上では「利用していない」が最も高くなっています。

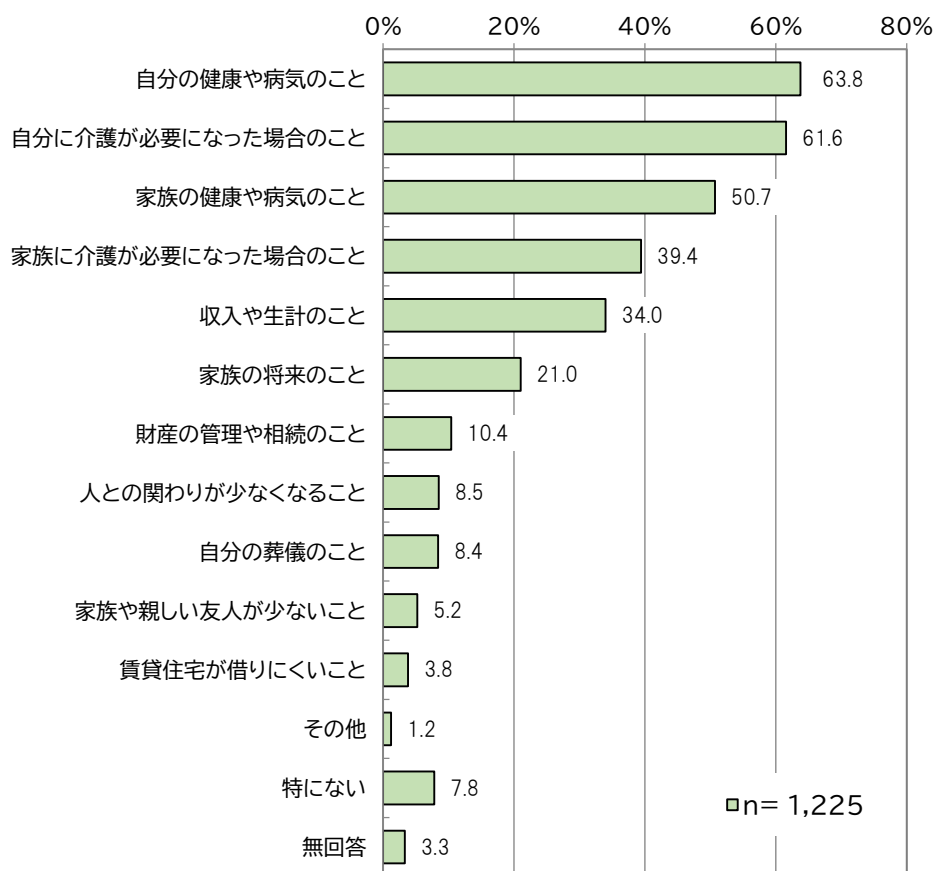
区分	有効回答数 (件)	頻繁に 利用して いる	時々 利用して いる	利用 してい ない	無回 答
65～69 歳	424	64.2	29.2	5.9	0.7
70～74 歳	458	46.9	36.2	15.7	1.1
75～79 歳	119	41.2	31.1	26.1	1.7
80～84 歳	81	23.5	30.9	39.5	6.2
85～89 歳	29	13.8	31.0	41.4	13.8
90 歳以上	10	-	50.0	50.0	-



# ⑩今後の生活について

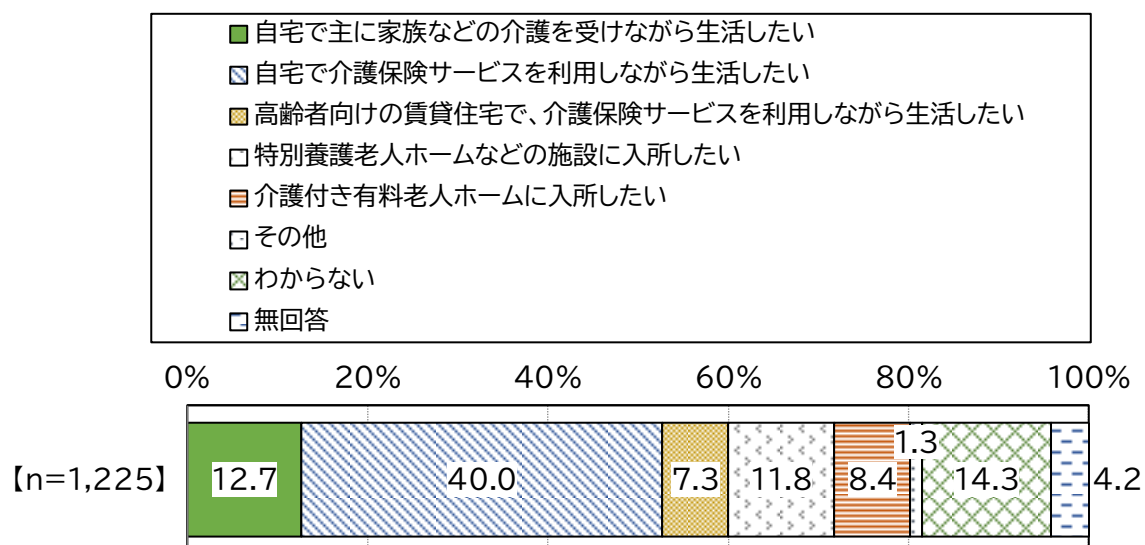
○今後の生活で不安に感じること（一般高齢者 問 42）

「自分の健康や病気のこと」が63.8%と最も高く、次いで「自分に介護が必要になった場合のこと」が61.6%、「家族の健康や病気のこと」が50.7%となっています。



○介護が必要になった場合に希望する介護のあり方（一般高齢者 問 43）

「自宅で介護保険サービスを利用しながら生活したい」が40.0%と最も高く、次いで「自宅で主に家族などの介護を受けながら生活したい」が12.7%、「特別養護老人ホームなどの施設に入所したい」が11.8%となっています。

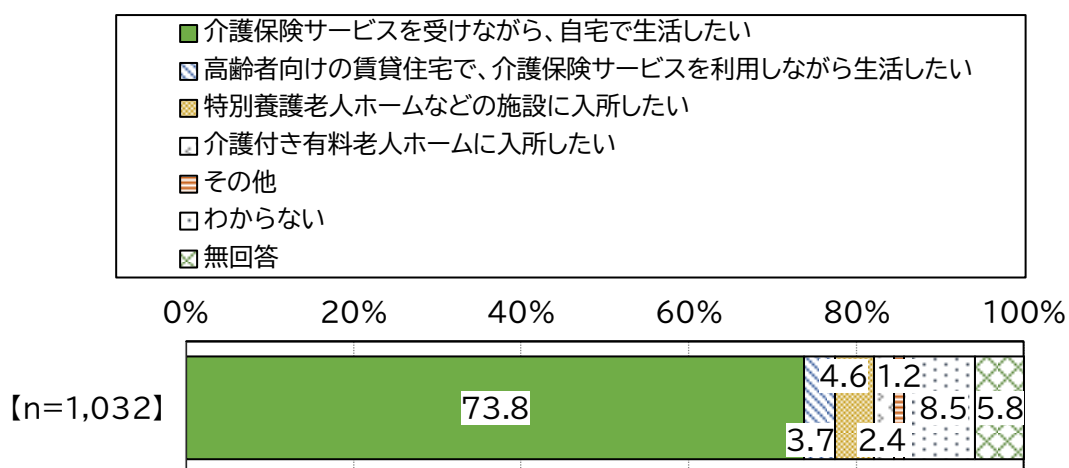


○要介護等認定者の今後の生活意向について

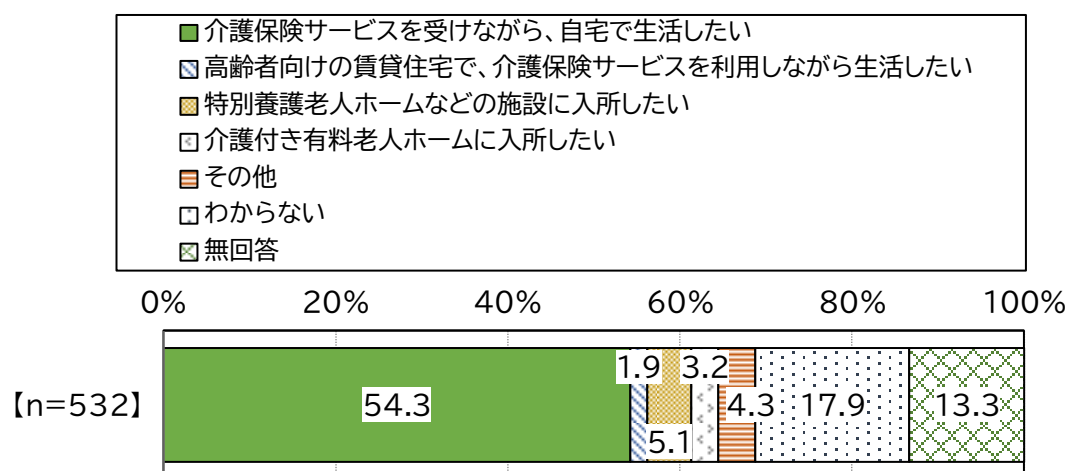
(在宅サービス利用者 問 25、介護保険サービス未利用者 問 16)

在宅サービス利用者、介護保険サービス未利用者ともに、「介護保険サービスを受けながら、自宅で生活したい」が最も高くなっています。

在宅サービス利用者

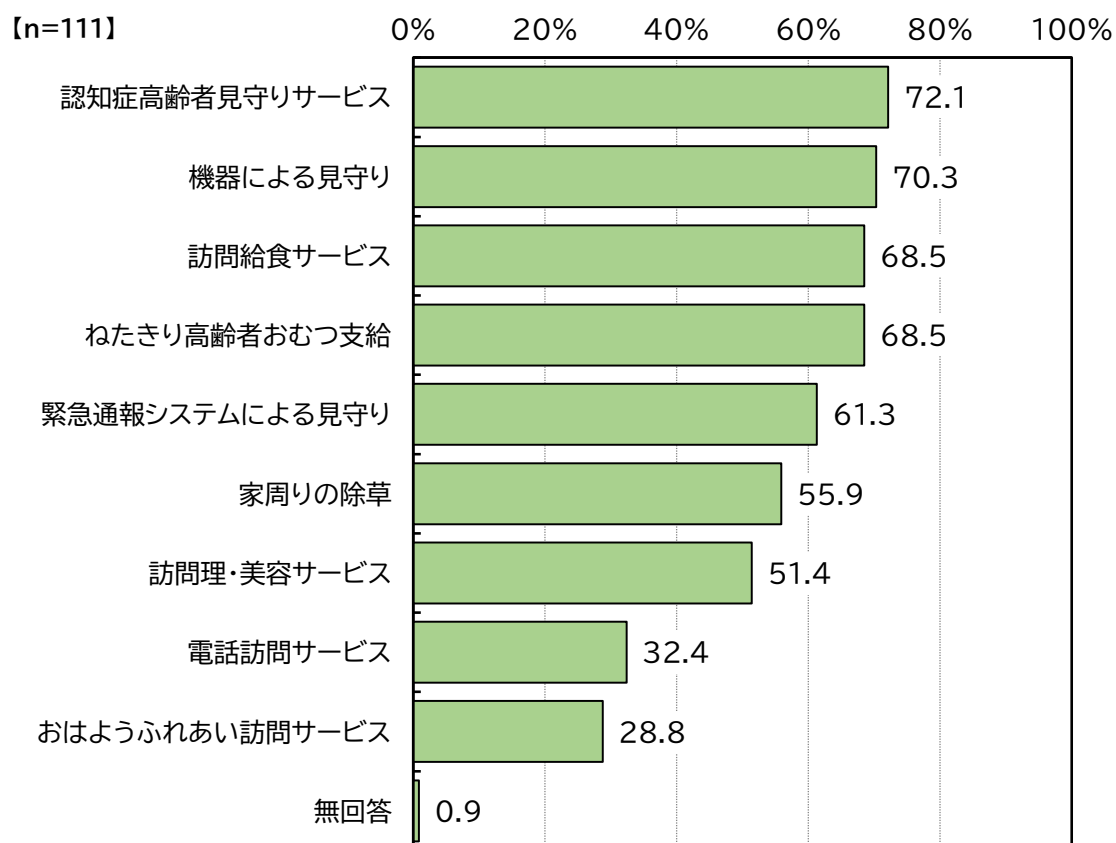


介護保険サービス未利用者



○在宅生活を続ける上で、必要と感じるサービス（介護専門員 問 13）

「認知症高齢者見守りサービス」が72.1%で最も高く、次いで「機器による見守り」が70.3%、「訪問給食サービス」と「ねたきり高齢者おむつ支給」がともに68.5%となっています。

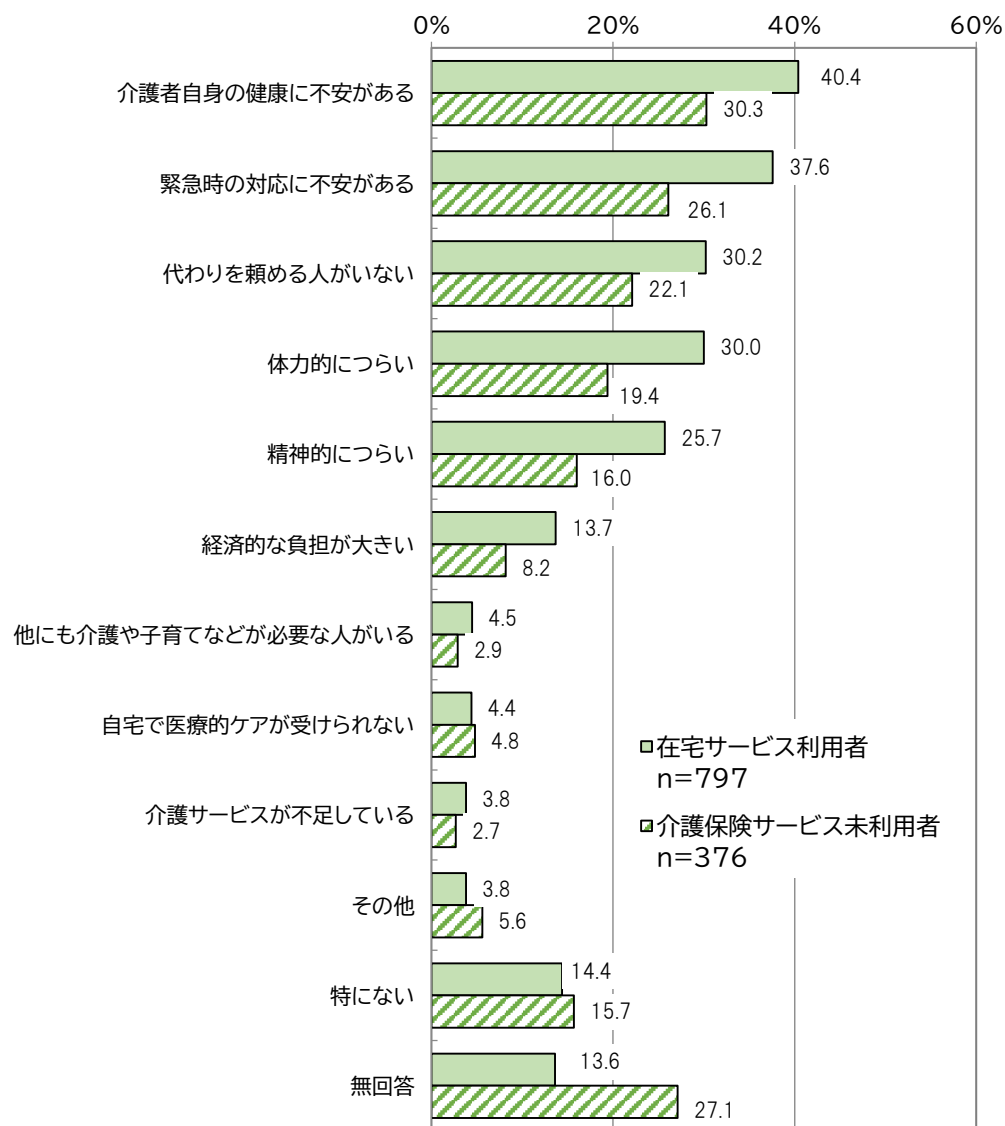


## ⑪介護者への支援

○主に介護している方が困っていること

(在宅サービス利用者 問 39、介護保険サービス未利用者 問 30)

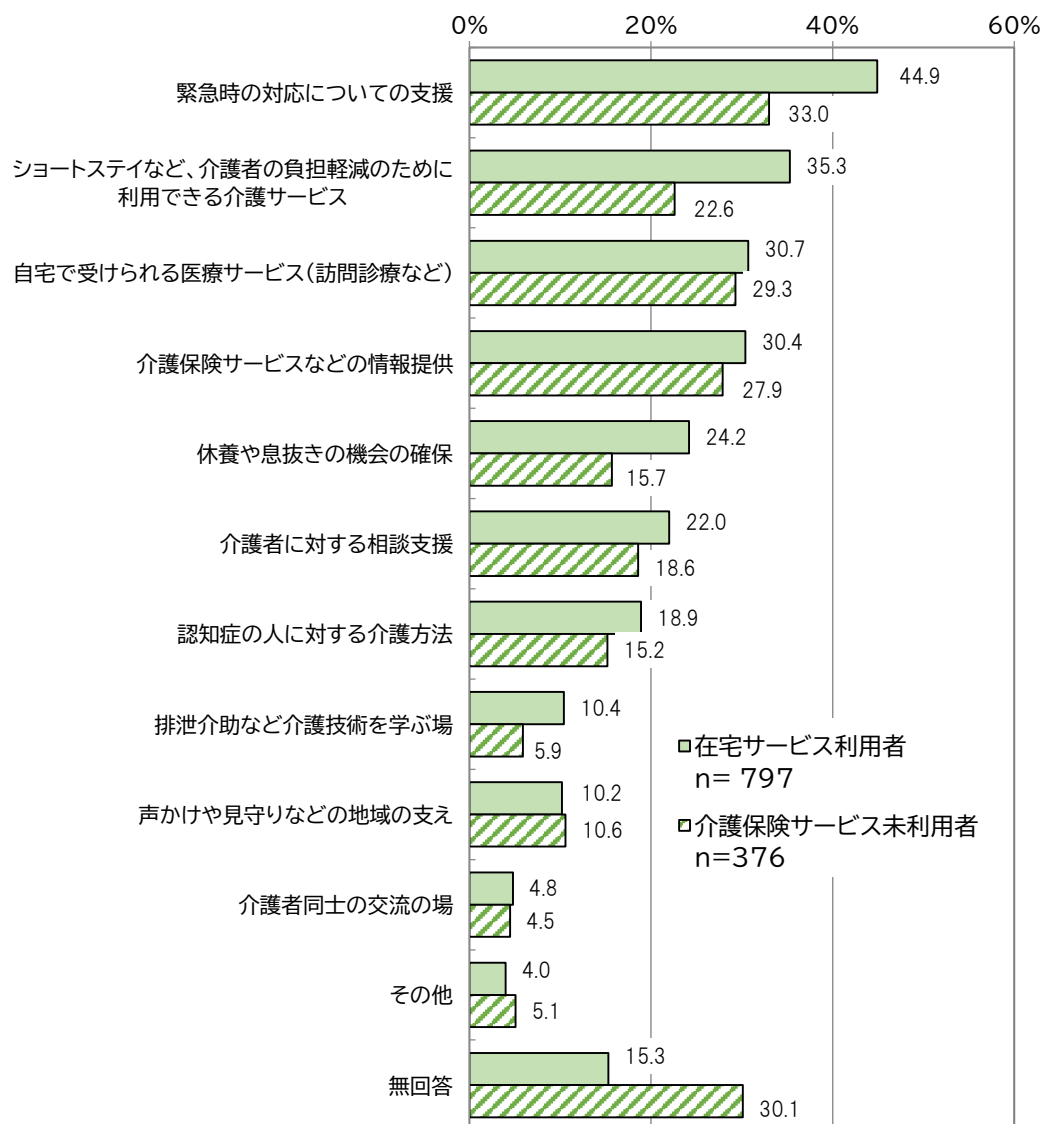
在宅サービス利用者、介護保険サービス未利用者ともに、「介護者自身の健康に不安がある」が最も高くなっています。そのほか、「緊急時の対応に不安がある」、「代わり頼める人がいない」「体力的につらい」、が上位に挙げられています。



## ○介護者への支援で必要なこと

(在宅サービス利用者 問 41、介護保険サービス未利用者 問 32)

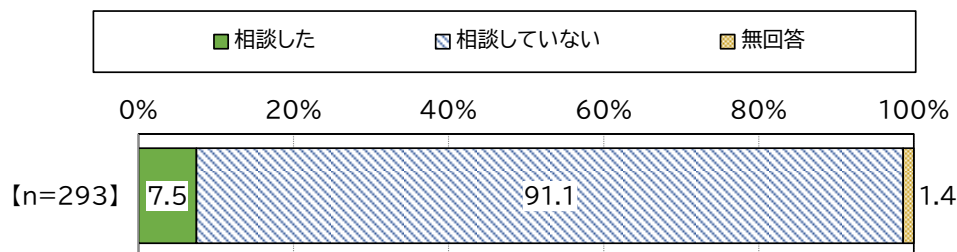
在宅サービス利用者、介護保険サービス未利用者ともに、「緊急時の対応についての支援」が最も高く、30%を上回る方が挙げています。そのほか、「ショートステイなど、介護者の負担軽減のために利用できる介護サービス」、「自宅で受けられる医療サービス（訪問診療など）」、「介護保険サービスなどの情報提供」、「休養や息抜きの機会の確保」、「介護者に対する相談支援」などとなっています。



## ⑫認知症施策について

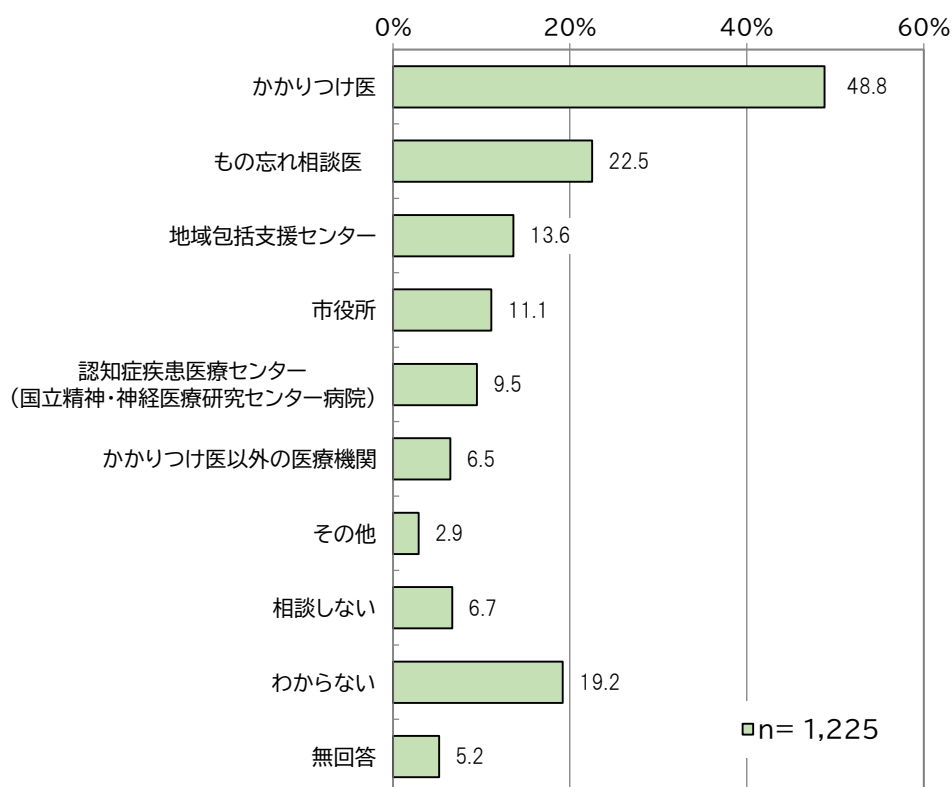
○もの忘れなどの相談について（一般高齢者 問37）

「相談した」が7.5%、「相談していない」が91.1%となっています。



○もの忘れなどについて相談する場合の相談窓口（一般高齢者 問38）

「かかりつけ医」が48.8%と最も高く、次いで「もの忘れ相談医」が22.5%となっています。また、「わからない」、「相談しない」を合わせた割合は25.9%で、約4分の1となっています。

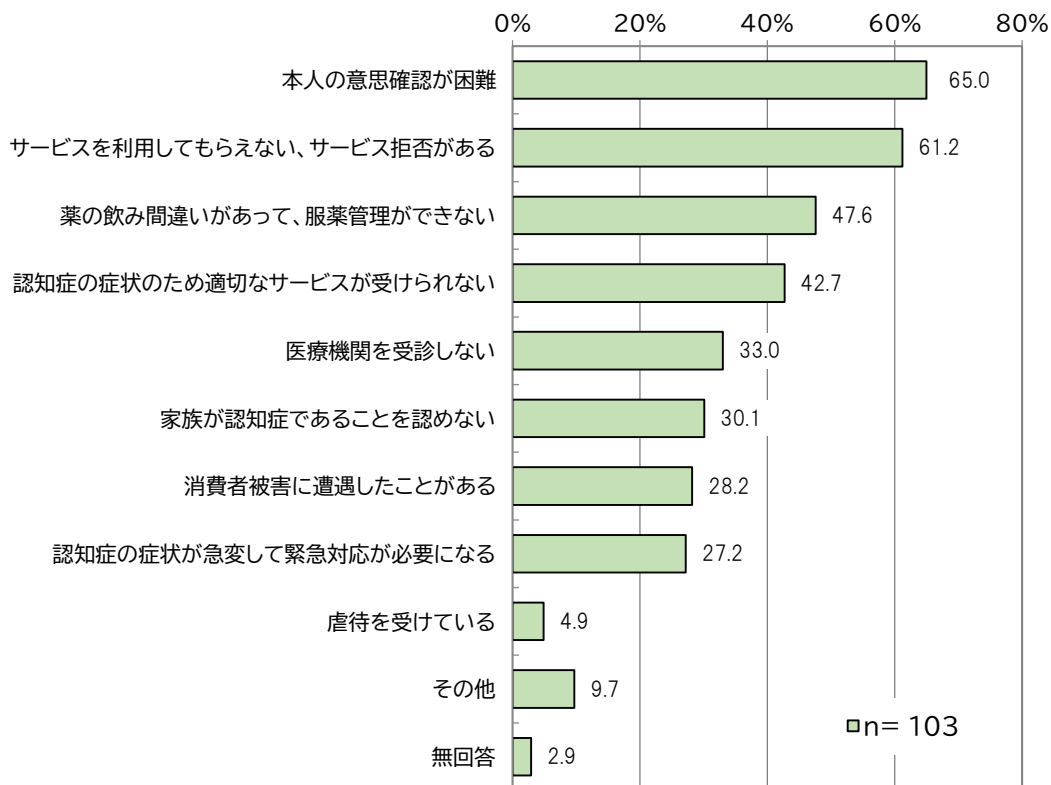


※もの忘れ相談医

ふだん診療していない人に対しても、認知症の相談を受け付け、認知症の診断ができる病院等を紹介する医療機関で、小平市独自の制度です。

○認知症の方の課題（介護支援専門員 問 17）

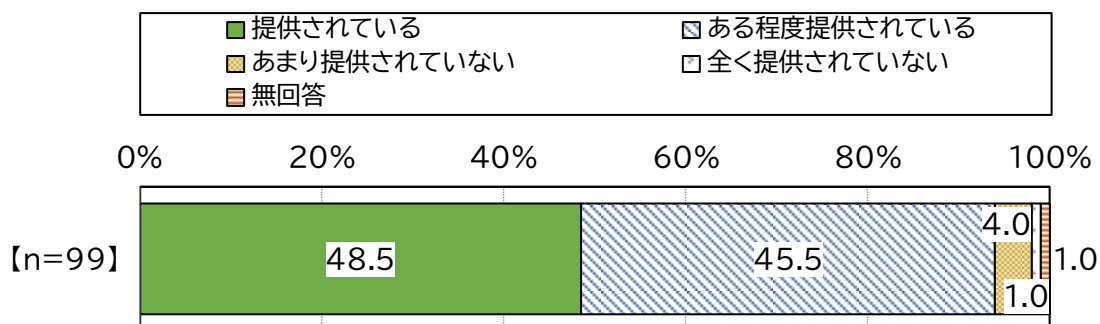
「本人の意思確認が困難」が65.0%と最も高く、次いで「サービスを利用してもらえない、サービス拒否がある」が61.2%、「薬の飲み間違いがあって、服薬管理ができない」が47.6%となっています。



⑬在宅医療と介護の連携について

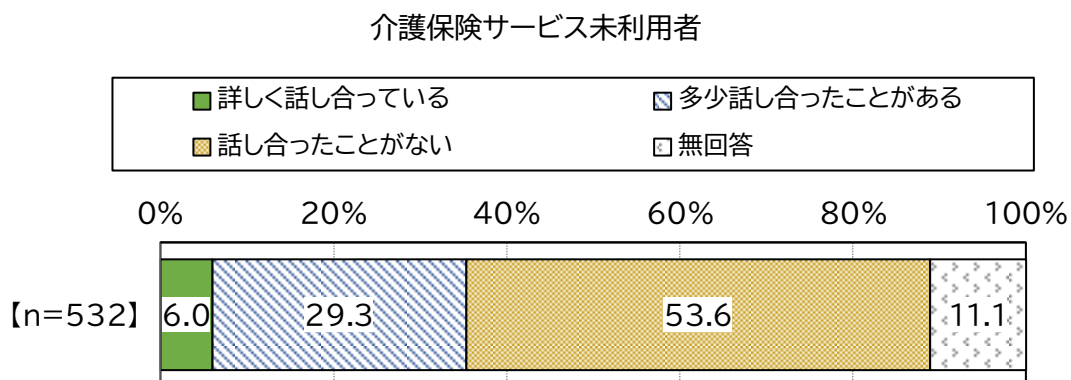
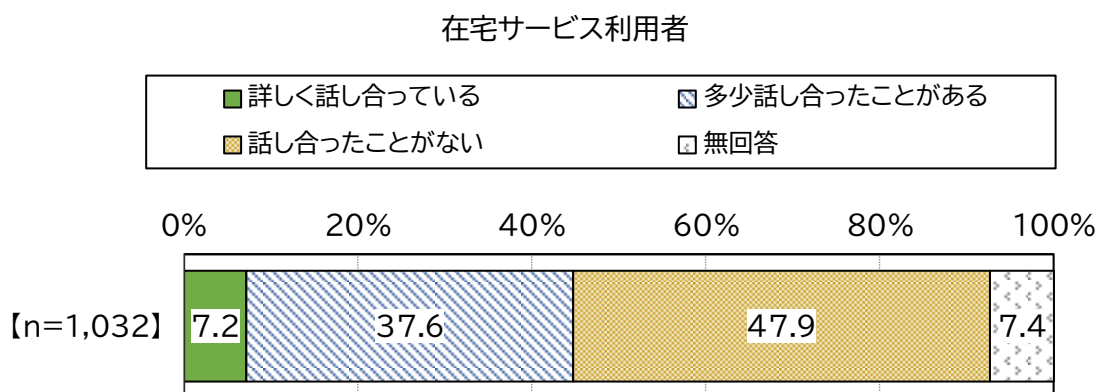
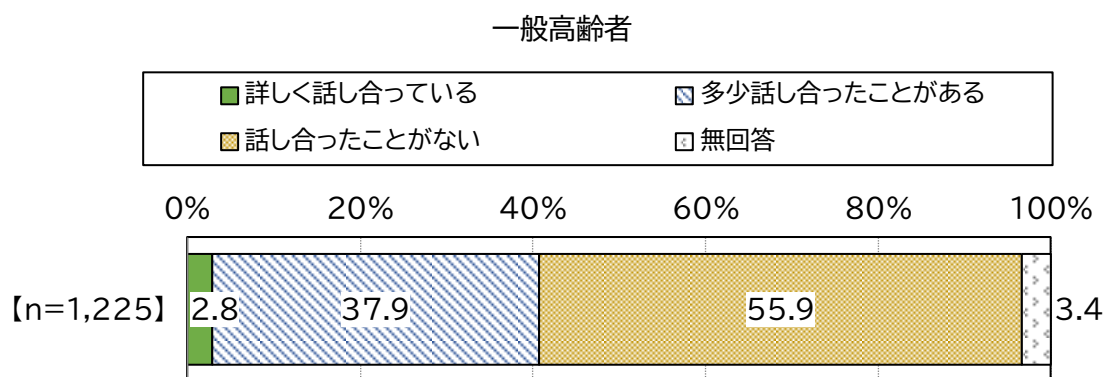
○訪問診療が必要と思われる方への訪問診療の提供状況（介護支援専門員 問 23）

「提供されている」と「ある程度提供されている」をあわせた“提供されている”が94.0%となっています。



○人生の最期の過ごし方や受たい医療などについての家族や友人との話し合い  
 (一般高齢者 問 46、在宅サービス利用者 問 28、介護保険サービス未利用者 問 19)

一般高齢者では 55.9%、在宅サービス利用者では 47.9%、介護保険サービス未利用者では 53.6%が、「話し合ったことがない」となっています。

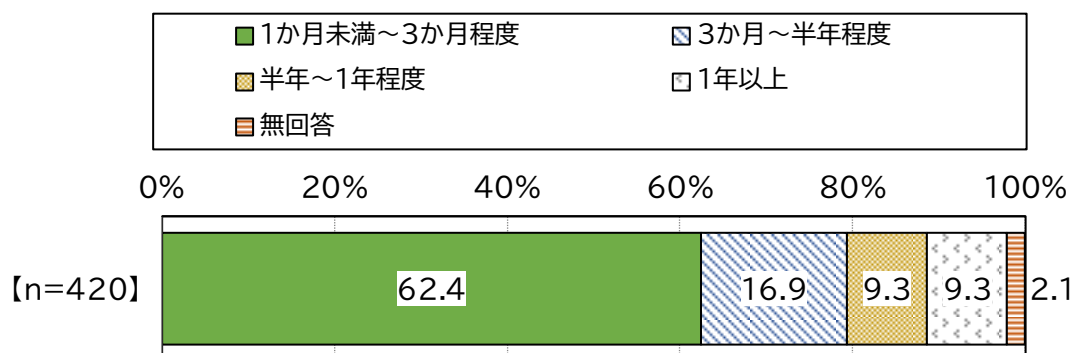




#### ⑭介護施設への入所

○待機期間（施設・居住系サービス利用者 問 10）

「1か月未満～3か月程度」が62.4%と最も高く、次いで「3か月～半年程度」が16.9%、「半年～1年程度」と「1年以上」が9.3%となっています。



#### 【施設の種類の別】

施設の種類の別でみると、特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）で「3か月以上」が60%を超えています。

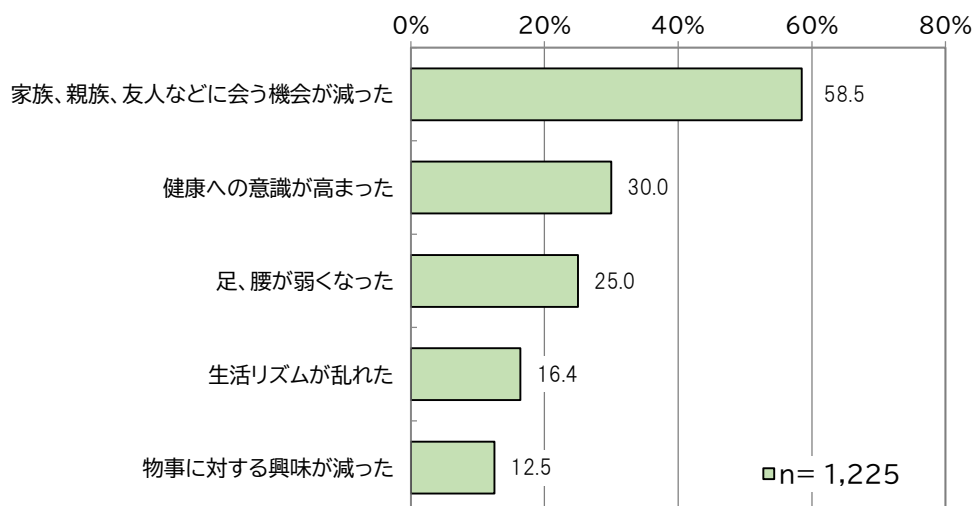
単位：%

区分	有効回答数(件)	1か月未満～3か月程度	3か月～半年程度	半年～1年程度	1年以上	無回答
特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）	164	31.7	28.7	21.3	16.5	1.8
介護老人保健施設	67	91.0	7.5	1.5	-	-
介護療養型医療施設	15	73.3	6.7	-	13.3	6.7
有料老人ホーム	116	85.3	6.0	-	5.2	3.4
認知症高齢者グループホーム	47	68.1	23.4	4.3	4.3	-
介護保険以外の病院	1	-	-	100.0	-	-
その他	4	100.0	-	-	-	-

### ⑮新型コロナウイルス感染症の影響

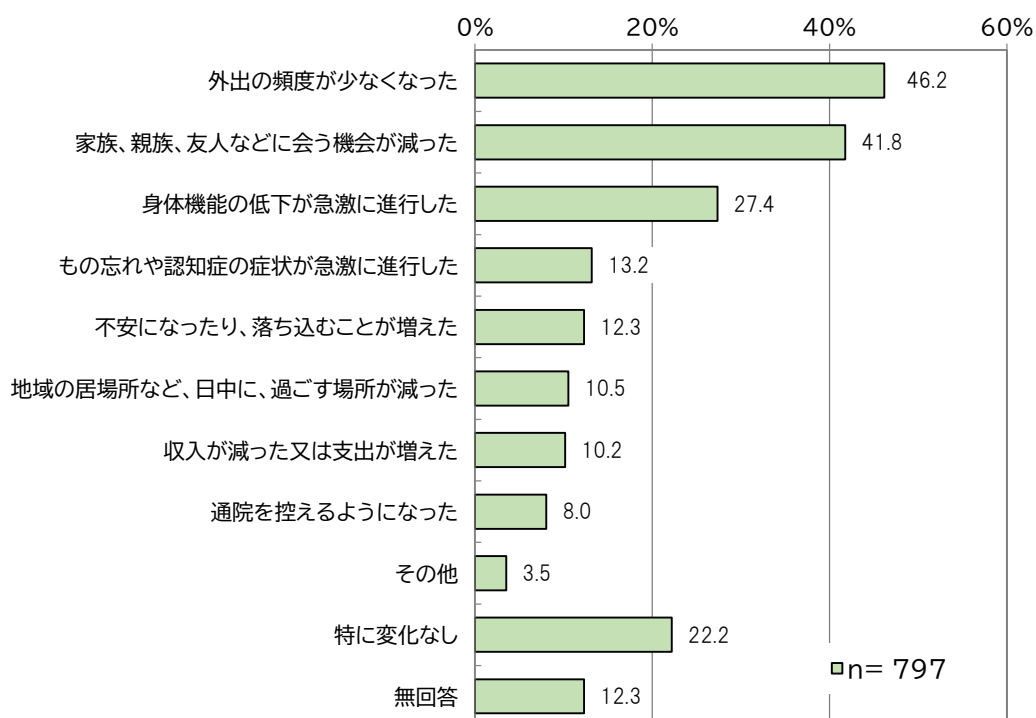
○生活や健康への影響 上位5項目（一般高齢者 問17）

「家族、親族、友人などに会う機会が減った」が58.5%と最も高く、次いで「健康への意識が高まった」が30.0%、「足、腰が弱くなった」が25.0%、「生活リズムが乱れた」が16.4%、「物事に対する興味が減った」が12.5%などとなっています。



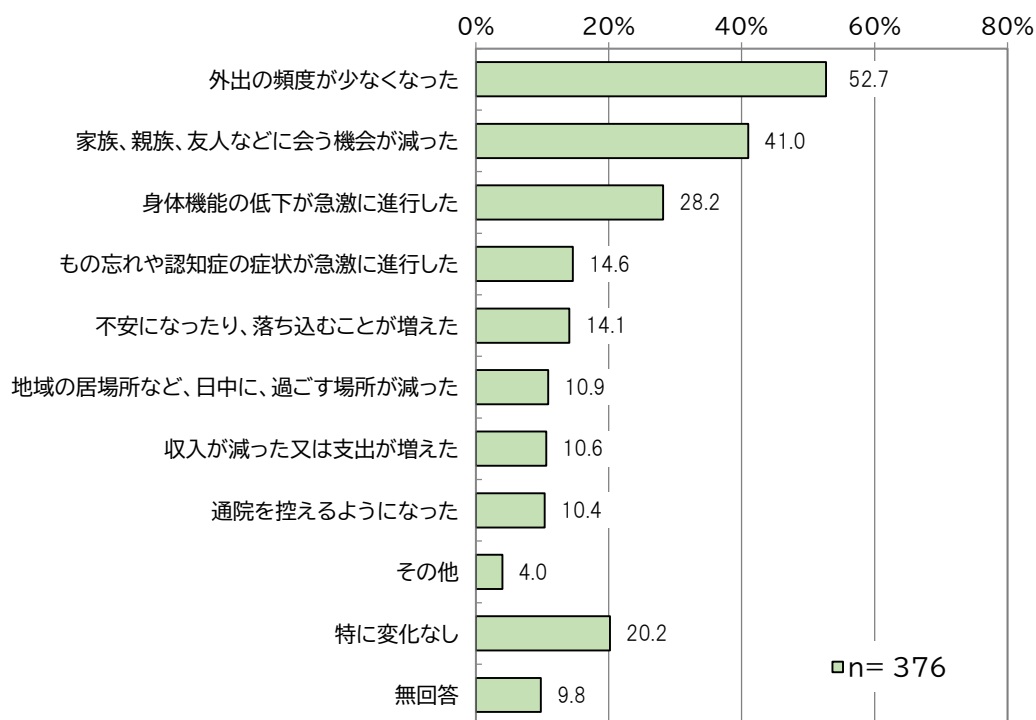
○介護者の視点で感じた、介護を受けている方に生じた影響や困ったこと（在宅サービス利用者 問44）

「外出の頻度が少なくなった」が46.2%と最も高く、次いで「家族、親族、友人などに会う機会が減った」が41.8%、「身体機能の低下が急激に進行した」が27.4%となっています。



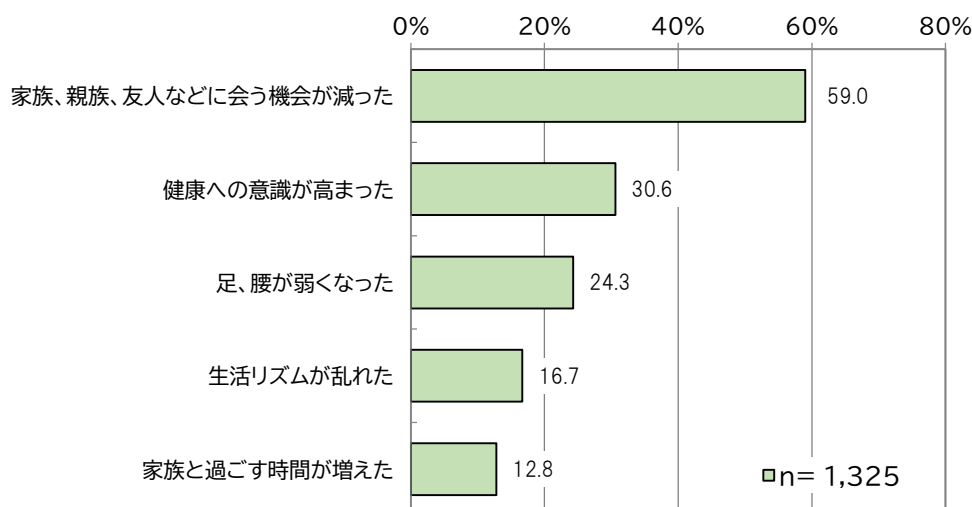
○介護者の視点で感じた、介護を受けている方に生じた影響や困ったこと（介護保険サービス未利用者 問 35）

「外出の頻度が少なくなった」が52.7%と最も高く、次いで「家族、親族、友人などに会う機会が減った」が41.0%、「身体機能の低下が急激に進行した」が28.2%となっています。



○生活や健康への影響 上位5項目（介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 問 48）

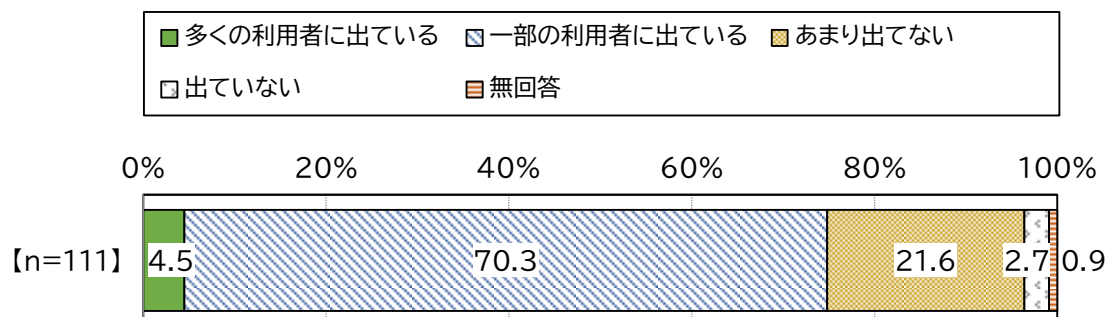
「家族、親族、友人などに会う機会が減った」が59.0%と最も高く、次いで「健康への意識が高まった」が30.6%、「足、腰が弱くなった」が24.3%、「生活リズムが乱れた」が16.7%、「家族と過ごす時間が増えた」が12.8%などとなっています。



○ケアマネジャーから見た利用者の状態の変化（介護専門員 問 14）

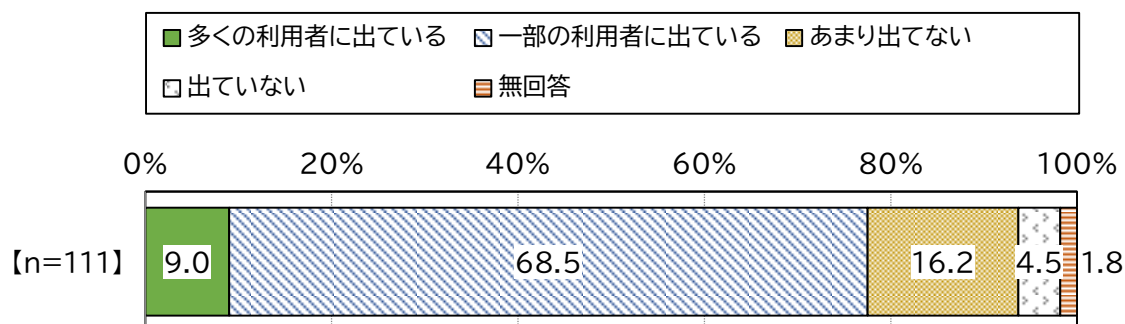
（１）認知症と診断された、または症状が悪化した。（１つに○）

「一部の利用者に出ている」が70.3%で最も高く、次いで「あまり出てない」が21.6%、「多くの利用者に出ている」が4.5%となっています。



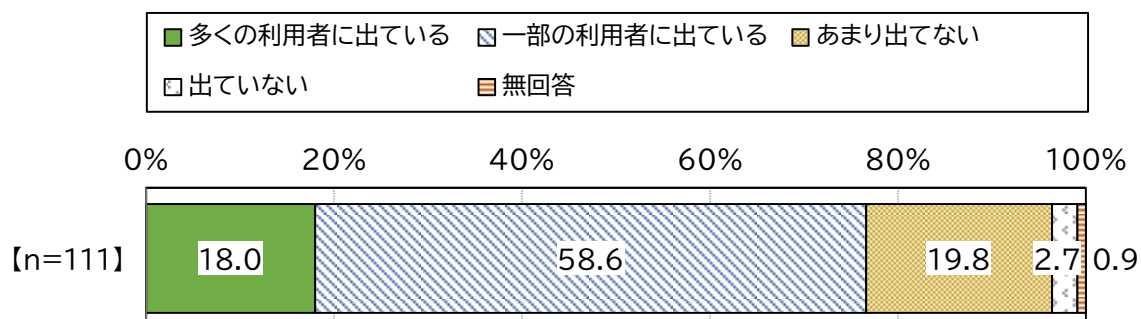
（２）身体機能の低下が進み、重度化した。（１つに○）

「一部の利用者に出ている」が68.5%で最も高く、次いで「あまり出てない」が16.2%、「多くの利用者に出ている」が9.0%となっています。



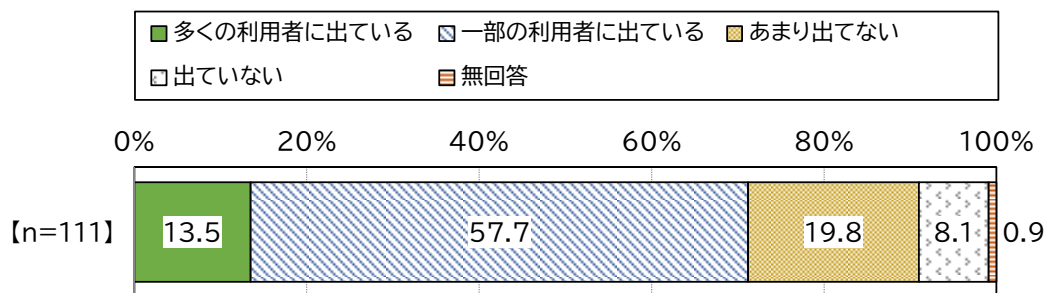
（３）生活への不安を訴えるようになった。（１つに○）

「一部の利用者に出ている」が58.6%で最も高く、次いで「あまり出てない」が19.8%、「多くの利用者に出ている」が18.0%となっています。



(4) 精神面での不安定さが目立つようになった。(1つに〇)

「一部の利用者に出ている」が57.7%で最も高く、次いで「あまり出てない」が19.8%、「多くの利用者に出ている」が13.5%となっています。



#### ⑩小平市への意向

○保険者としての小平市に対して望むこと (介護専門員 問38)

「介護保険に関する情報提供」が61.3%で最も高く、次いで「制度運営における保険者判断部分の周知」が59.5%、「利用者や家族への制度の周知」が48.6%となっています。

